

Ⅲ 野菜・いも類

1 野菜・いも類病害虫

野菜・いも類病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に野菜振興への取り組みが重要であり、収量・品質の高位安定化が必要である。

防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態等を熟知して耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向を的確に把握して、環境に配慮しながら、薬剤の性質を生かした適正な防除を実施する。

1 耕種的防除の推進

- ・排水対策を徹底するとともに、有機物の施用や深耕等による土づくりを行う。
- ・抵抗性品種・台木や無病苗を利用する。
- ・作型に応じた品種を使う。
- ・輪作や整枝・剪定・ハウスの換気など栽培環境の改善を行う。
- ・近紫外線カットフィルムや防虫ネット等を利用する。
- ・被害残渣の処理等、圃場衛生を心掛け、圃場の病原菌・害虫の密度を下げる。
- ・太陽熱利用による土壤消毒法など環境にやさしい手法を推進し、土壤伝染性病害虫の防除を徹底する。

2 農薬による防除技術

- ・薬剤防除は、予防および発生初期防除を基本とする。
- ・薬剤の効果を最大限引き出すため、薬剤がかかりやすいよう整枝、剪定を行う。
- ・耐性菌、抵抗性害虫の発生しやすい病害虫は、同一系統薬剤の連用による効果の低下を防ぐため、他系統の薬剤とのローテーションを図る。
- ・集団産地の防除組織の育成強化を図り、安全かつ効率的な防除を推進する。

3 天敵等による防除技術

- ・天敵、生物農薬、フェロモン等の有効活用を図る。

(1) トマト										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インブ レクションクリア	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグ リーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノン水和剤	50		3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ジ ーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イソピラザラム水和剤	7		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	トマト
疫病	Zボルドー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ザンブロDMフロアブル	アメトクトラジン・ジメトモルフ水和剤	40,45		1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
かいよう病	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
菌核病	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	スクレアフロアブル	マンデストロビン水和剤	11		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
すすかび病	シグナムWDG	ピラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	トマト
苗立枯病	オーソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	トマト
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト
苗立枯病(リゾクトニア菌)	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	3 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	は種時又は活着後 但し、定植14日後まで	土壌灌注	2回以内	トマト
	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		750～1500倍	3 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	トマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	トマト
灰色かび病	アフエットフロアブル	ベンチオピラド水和剤	7		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	インブ レクションクリア	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カンタストライフロアブル	ボスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	シグナムWDG	ピラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	セイバーフロアブル20	フルジオキノール水和剤	12		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	バレード 20フロアブル	ピラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ピクシオDF	フェンピラザミン水和剤	17		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリハソカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ボトキラー水和剤	バチルス スピリリス水和剤	BM2		1000倍	150～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					7.5～15g/10a/日		発病前～発病初期	ダクト内投入	-	トマト
	ボリキシンAL水和剤	ボリキシン水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ロブラル水和剤	イプロン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
					200g/10a	5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	トマト

病虫害名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
葉かび病	カスミンボルドー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	トマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ドーシヤスフロアブル	シアゾファミド・TPN水和剤	21,M5		1000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ・ベンミル水和剤	1,10		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ネクスターフロアブル	イソピラゾラム水和剤	7		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	バレード20フロアブル	ピラゾフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピラネンカルブ水和剤	11		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	園芸ボルドー	硫黄・銅水和剤	"UN(I*),M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	トマト
斑点細菌病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルドー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
斑点病	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
輪紋病	Zボルドー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	トマト
	カスミンボルドー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
アザミヤカ類	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
アブラムシ類	アドマイア水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	チェス顆粒水和剤	ピメトジソン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400株当たり25mL	400株当たり10～20g(1株当たり25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
材カガ	アファーム乳剤	エマメクシン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	スピノース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	マッチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
オシツコナジラミ	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	トマト
オシツコナジラミ幼虫	アブロード水和剤	ブプロフェジソン水和剤	16		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

病虫害名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コナジラミ類	アグ リメック※	アバ メクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アドマイヤー水和剤	イミダ クロプ リド 水和剤	4A	劇	2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	アニキ乳剤※	レピ メクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	アヘ ール粒剤	アセタミフ リト ・シアントラニリブ ロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	アルハ ーリン顆粒水溶剤※	ジ ノテフラン水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはヘ ーパ ーボ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0㍈)当り0.5㍈	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	グ レーシア乳剤	フルキサミト 乳剤	30		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	コルト顆粒水和剤※	ヒ ーリフルキサゾ ン水和剤	9B		4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	スタークル顆粒水溶剤※	ジ ノテフラン水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはヘ ーパ ーボ ット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0㍈)当り0.5㍈	鉢上時又は定植時	灌注	1回	トマト
					2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ダ ブ ー ルシューター-SE	脂肪酸グ リセリド ・スピ ノサド 水和剤	「-」,5		1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	チェス顆粒水和剤	ヒ ーメトロジ ン水和剤	9B		5000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	トランスフォームフロアブ ー ル	スルホキサフロル水和剤	4C		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	トレボ ン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A		1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ブ リロッソ粒剤オメガ	シアントラニリブ ロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	トマト
					2g/株		鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト
	ヘ ー ストガ ード 粒剤	ニテンビ ーラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	トマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理 土壌混和	1回	トマト
					5g/培土㍈		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	トマト
					セル成型育苗トレイ1箱またはヘ ーパ ーボ ット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4㍈)当り50g散布		育苗期後半	散布	1回	トマト
トマトザビ ーダニ	ヘ ーネビ ーアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ヘ ーリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20㍈(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
	モレスタン水和剤	キナザリン系水和剤	"UN(I*)		1500～2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	ラノ ーテ ーブ	ヒ ーリブ ロキシフェン剤	7C		10～50㎡/10a		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)
	粘着く ん液剤	デ ンブ ン液剤	「-」		100倍	150～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	アフ ーーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	イオウフロアブ ー ル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300㍈/10a	発生初期	散布	-	トマト
ネコブ センチュウ	マツチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	ガ ード ーホ ーブ 液剤	ホスチアセ ート液剤	1B	劇	4000倍	2㍈/㎡	収穫前日まで	土壌灌注	1回	トマト
ハスモンヨトウ	マツチ乳剤	ルフェスロン乳剤	15		3000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ハダ ーニ類	ダ ブ ー ルシューター-SE	脂肪酸グ リセリド ・スピ ノサド 水和剤	「-」,5		1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハモグ リバ イ類	アファム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	トマト
	アベ イル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブ ロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	トマト
	ダ プ ルシューター-SE	脂肪酸ゲ リセリド・ステ ノサド 水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	トマト
	ベ ネビ アOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト
	ベ リマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ (1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	トマト
マメハモグ リバ イ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
ミカンキイロアザ ミウマ	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	トマト
	コテツフロアブ ル	クロルフェナピ ル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	トマト

※ タバココナジラミバイオタイプQに効果あり（福井県農業試験場調べ）

トマト黄化葉巻病対策

1 トマト黄化葉巻病について

(1) 病原ウイルス

トマト黄化葉巻ウイルス(Tomato yellow leaf curl virus :TYLCV)

(2) 病 徴

発病初期は、新葉が葉縁から退緑しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮葉となる。
病勢が進むと頂部が叢生し、茎部の節間が短くなり株全体が黄化萎縮する。

(3) ウイルスの伝染源

罹病しているトマトと考えられる。

(4) ウイルスの伝染方法

タバココナジラミバイオタイプ B および Q によって媒介される。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、他の害虫(オンシツコナジラミなど)による虫媒伝染はしないが、接ぎ木伝染はする。

2 防除対策

物理的防除

- ・0.4mm 目以下の防虫ネットを展張し、タバココナジラミのハウス内への侵入を防ぐ(換気扇や遮光等施設内の高温対策が必要)。
- ・黄色粘着板を設置し、誘殺、発消長の把握に用いる。
- ・太陽光反射マルチ、UV除去フィルムを利用し、タバココナジラミの侵入を阻止する。

耕種的防除

- ・冬期間中に無栽培期間を設け、伝染源となるトマトをなくす。また、ハウス内を寒さにあて、タバココナジラミの越冬を防ぐ。
- ・雑草はタバココナジラミの繁殖場所となるので、ハウス内外の除草を行う。
- ・発病株は見つけ次第すぐに抜き取る。その際、発病株は伝染源にならないよう土中に埋める、ビニール袋などで密封・枯死させてから廃棄する等して処分し、圃場周辺に放置しない。

化学的防除

- ・は種時にベストガード等の粒剤を混和する。購入苗は納入後すぐにベストガード等の粒剤を散布し、タバココナジラミの密度抑制に努める。(育苗期間の防除薬剤を確認しておくこと)
- ・タバココナジラミの発生が見られたら、すぐに防除する。
- ・散布時は、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。(次頁表参考)

【参考】トマトのタバコナジラミ(コナジラミ類)防除薬剤の一覧

IRAC コード	防 除 方 法			農 薬 使 用 基 準		注 意 事 項	バイオ タイプ	
	薬 剤 名	使 用 濃 度	10 アール 当たり使用量	使用時期 (収穫何日 前まで)	使 用 回 数		B	Q
3A	トレボン乳剤	1,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	×
4A	ベストガード粒剤	植穴処理土壌混和 1～2g/株		定 植 時	1回		○	○
	ベストガード水溶剤	1,000～2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
	アドマイヤー水和剤	2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	△
	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	2,000～3,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	○
	モスピラン顆粒水溶剤	2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	△
4A+28	アベイル粒剤		2g/株	育苗期後半～ 定 植 当 日	1回		○	△
4C	トランスフォームフロアブル	1,000～2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	○
5+未	ダブルシューターSE	1,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	○
6	アニキ乳剤	1,000～2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
	アグリメック	500～1,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
7C	ラノーテープ		10～50 m ²	栽 培 期 間 中	1回	施設栽培に限る	○	×
9B	チェス顆粒水和剤	5,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
	コルト顆粒水和剤	4,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
15	ノーモルト乳剤	2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	△
16	アプロード水和剤	1,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回	幼虫のみの登録	○	△
23	クリアザールフロアブル	2,000～4,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	○
28	ベネビアOD	2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	3回		○	○
	プリロッソ粒剤オメガ		2g/株	育苗期後半～ 定 植 時	1回		○	○
	ベリマーク SC	25 mL/400 株	10～20g/400 株	育苗期後半～ 定 植 当 日	1回		○	○
30	グレーシア乳剤	2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	2回		○	○
UN	モレスタン水和剤	1,500～2,000 倍	100～300g	前 日 ま で	5回		○	△
未	粘着くん液剤	100 倍	150～300g	前 日 ま で	—		○	○

※JA 全農、福井県農試調べ ○…効果あり △…効果あるものと劣るものがある ×…効果劣る

トマト灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除対策

1 発生生態

灰色かび病…果実、花弁、葉、茎に発生。被害部が褐変して、灰色のかびを生じる。発病適温は 15～23℃ (22～23℃で、湿度が 85～90%以上の条件が続くと激発)。胞子の飛散は、曇雨天の時に多い。

葉かび病 …葉に発生。初め葉裏に灰黄色～緑褐色のビロード状のかびを生じ、その後灰褐色～灰紫色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 20～25℃。感染から発病までの期間は約 2 週間。外観ですすかび病との区別は困難。

すすかび病…葉に発生。初め葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑が生じ、やがて灰褐色粉状のかびを生じ、進展すると円形あるいは葉脈に囲まれた不整形病斑となり灰褐色～黒褐色に変わる。多湿条件で発病し、適温は 26～28℃。

2. 防除のポイント

- 1) 換気や灌水量に注意。低温時は暖房機や循環扇による通風により植物体への結露を防止し、施設内の湿度低下に努める。
- 2) マルチを行い、ハウス内の湿度の上昇や土壌からの病原菌の伝染を防止する。
- 3) 整枝、剪定により過繁茂を避け、採光や通風をよくする。また、適切な肥培管理に努め、健全な生育を促す。
- 4) 発病した果実や葉等は伝染源となるため、速やかに除去し圃場外で処分する。
- 5) 発病前から薬剤散布を行い、予防に努める。
- 6) 耐性菌の発生を抑えるため、同一系統および同一薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

【参考】トマトの灰色かび病、葉かび病、すすかび病防除薬剤

FRAC コード	農薬の名称	使用時期	灰色かび病	葉かび病	すすかび病	うどんこ病	輪紋病	疫病
2	ロブラルール水和剤	収穫前日まで	○				○	
	スミレックス水和剤	収穫前日まで	○					
1+10	ゲッター水和剤	収穫前日まで	○	○				
	ニマイバー水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○		
12	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	○					
9	フルピカフロアブル	収穫前日まで	○					
3+M3	テーク水和剤	収穫前日まで		○		○		○
3	トリフミン水和剤	収穫前日まで		○	○	○		
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	収穫前日まで	○	○	○			
7	アフエットフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	カンタスドライフロアブル	収穫前日まで	○	○				
	バレード 20 フロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
	ネクスターフロアブル	収穫前日まで	○	○	○	○		
7+11	シグナム WDG	収穫前日まで	○	○	○	○		
M7	ベルコート水和剤	収穫前日まで	○	○				
21+M5	ドーシャスフロアブル	収穫前日まで		○			○	○
24+M1	カスミンボルドー	収穫前日まで		○			○	○
19	ポリオキシ AL 水和剤	収穫前日まで	○	○				
BM2	インプレッションクリア	発病前～発病初期まで	○	○	○	○		
	エコショット	収穫前日まで	○	○				
	ボトキラー水和剤	発病前～発病初期	○			○		
M5	ダコニール 1000	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○
M3	ジマンダイセン水和剤	収穫前日まで		○			○	○
17	ピクシオ DF	収穫前日まで	○					
NC	カリグリーン	収穫前日まで	○	○		○		
	ハーモメイト水溶剤	収穫前日まで	○			○		

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認すること。

注) 地域により、灰色かび病、葉かび病に対する N-フェニル-N-メチル系薬剤効果が低下しているところがあるので、注意する。

(2) ミニトマト										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	クロスアウトフロアブル	ピリオフェノン水和剤	50		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ミニトマト
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレーリス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					15g/10a/日		発病前～発病初期	ダクト内投入	-	野菜類(トマトを除く)
疫病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
	ザンパーDMフロアブル	アメトクダジン・ジメトモル水和剤	40,45		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
菌核病	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
すすかび病	トリアミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		750～1500倍	3g/m ²	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	ミニトマト
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ミニトマト
灰色かび病	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレーリス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
					10～15g/10a/日		発病前～発病初期	ダクト内投入	-	野菜類(トマトを除く)
葉かび病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	ミニトマト
	ゲッター水和剤	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
斑点細菌病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
輪紋病	Zボルトー	銅水和剤	M1		400～600倍	100～300g/10a	-	散布	-	ミニトマト
アブラムシ類	チェス顆粒水和剤	ピメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
オオタバコガ	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ミニトマト
コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	ピメトジン水和剤	9B		5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ミニトマト
	ベースガード粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		育苗期	株元処理	1回	ミニトマト
					1～2g/株		定植時	植穴処理土壌混和	1回	ミニトマト
					5g/培土g		は種時又は鉢上げ時	育苗培土混和	1回	ミニトマト
					セル成型育苗トレイ1箱またはベーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約1.5～4g) 当り50g散布		育苗期後半	散布	1回	ミニトマト
	ベリマークSC	シアントラニリプロール水和剤	28		400株当り25mL	400株当り10～20g(1株当り25～50mL)	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ミニトマト
					400株当り25mL	400株当り20～200g(1株当り50～500mL)	定植直後	株元灌注	1回	ミニトマト
トマトザシダニ	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト
	イオウフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		400倍	100～300g/10a	発生初期	散布	-	ミニトマト
ネコセンチュウ	ガードホープ液剤	ホスチアゼート液剤	1B	劇	4000倍	2g/m ²	収穫前日まで	土壌灌注	1回	ミニトマト
ハモクリバエ類	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ミニトマト

(3) なす										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	インフ レッションクリア	バチルス アミロリケファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300 ㏍/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	シグナムWDG	ピラクrostロピン・ホスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	トリフミン水和剤	トリフルミール水和剤	3		3000～5000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	バルミノ	キ/キサリン系水和剤	"UN(I*)		2000倍	150～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	プロパティフロアブル	ピリオフェノン水和剤	50		3000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	モレスタン水和剤	キ/キサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～3000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
灰色かび病	カンタストライフロアブル	ホスカリド水和剤	7		1000～1500倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミレックス水和剤	プロシミドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
					250g/10a	5 ㏍/10a	収穫前日まで	常温煙霧	6回以内	なす
	ポリベリン水和剤	イミノクダジン酢酸塩・ホリオキシソ水和剤	"「-」(I*),M7		1000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
苗立枯病	オソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2 ㏍/㎡	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	なす
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	なす
アザミウマ類	アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリプロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	なす
	ダブールシューターSE	脂肪酸ゲリレリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
アブラムシ類	アクロシン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	アドマイヤー1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	なす
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	なす
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	100g/10a	5 ㏍/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	なす
					2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	アベイル粒剤	アセタミプリド・シアントラニリプロール粒剤	28,4A		2g/株		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	なす
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	なす
	ハクザップ水和剤	フェンハレレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	マブリック水和剤20	フルバネート水和剤	3A	劇	4000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	なす
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	モベントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	なす
	ロデュー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
材料バグ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300 ㏍/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
オンシツコナジラミ	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	オルラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布 又は植穴 処理	1回	なす
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
チャノホコリダニ	モレスタン水和剤	キ/キサリン系水和剤	"UN(I*)		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
チャノホコリダニ幼虫	アプロート水和剤	アプロフェジン水和剤	16		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
テントウムシダマシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	なす
ネキリムシ類	カルボス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面 散布土壌 混和处理	2回以内	なす
ハスモンヨトウ	アテント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	ノモルト乳剤	テフルヘンズロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	なす
ハダニ類	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす
	コロマイト乳剤	ミルベメクチン乳剤	6		1500倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	なす
	バロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～350ℓ/10a	収穫前日まで	散布	1回	なす
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ミナミキイロアザミウマ	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	なす

(4) ピーマン										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	モレスタン水和剤	キ/キサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
					20g/100立方 m(50㎡×2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	ピーマン
苗立枯病	オーソサイド 水和剤80	キャブタン水和剤	M4		800倍	2g/㎡	は種後から2～3葉期まで	灌注	2回以内	ピーマン
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ピーマン
灰色かび病	ロブラル水和剤	イブロン水和剤	2		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ピーマン
斑点病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
アザミカ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド 粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	ピーマン
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド 粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴又は株元土壌混和	1回	ピーマン
					1g/株		育苗期後半	株元散布	1回	ピーマン
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロデイエー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン
オオタバコガ	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	6		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサト 水和剤	5		2500～5000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ピーマン
タバコガ	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫開始14日前まで	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ピーマン
ハモシヨトウ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫開始14日前まで	散布	4回以内	ピーマン (露地栽培)
ハダニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	ピーマン
	ロデイエー乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ピーマン

(5) すいか										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか
	トリアミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	バレード 2070アブール	ビラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
	バンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
疫病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	すいか
褐色腐敗病	フォリオゴールド	メタキシルM・TPN水和剤	4,M5		800～1000倍	100～400 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	すいか
	ホライズント ライフロアブール	シモキサニル・ファモキサドソン水和剤	11,27		2500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
菌核病	バレード 2070アブール	ビラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ水和剤	M3		400～600倍	150～200 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	ホシラン水和剤	キャブタン・有機銅水和剤	M1,M4		500～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	すいか
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
	ストロビーフロアブール	クレソキシメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		700倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600～800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	すいか
	ニマイバー水和剤	ジエトフェンカルブ・ベンゾミル水和剤	1,10		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	ベルコート水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
つる枯病	アフエットフロアブール	ベンチオピラド水和剤	7		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ水和剤	M3		400～600倍	150～200 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	シグナムWDG	ビラクトロピリン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
	ストロビーフロアブール	クレソキシメチル水和剤	11		2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		700～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	すいか
	バレード 2070アブール	ビラジフルミド水和剤	7		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	うり類(成熟)
	ベルコート水和剤	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	M7		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
	ロブール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	すいか
苗立枯病(リゾクニア菌)	バシタック水和剤75	メフロニル水和剤	7		750～1500倍	3 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	すいか
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	すいか
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	7回以内	すいか
アザミカ類	アグリメック	アバメクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
アブラムシ類	アグロスリン乳剤	シペルメトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	すいか
	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで(ただし、露地栽培については着果後)	散布	3回以内	すいか
	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	ベストガード 粒剤	ニテンピラム粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理 土壌混和	1回	すいか
					1g/株		育苗期	株元処理	1回	すいか
	マブリック水和剤20	フルバリネート水和剤	3A	劇	4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	すいか
	モスピラン粒剤	アセタミプリド 粒剤	4A		1g/株		定植時	植穴土壌 混和	1回	すいか
	モベントフロアブール	スピロテトラト水和剤	23		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	すいか

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
カリノメイガ	フェニックス顆粒水和剤	フルベ`ンジ`アミト`水和剤	28		2000～4000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
カリハムシ	ダ`ントツ水溶剤	クロチアニジ`ン水溶剤	4A		2000～4000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
コナジ`ラミ類	モベ`ントフロアブ`ル	スピ`ロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	25～50mL/株	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	すいか
タネバ`エ	ダ`イアジ`ン粒剤3	ダ`イアジ`ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	すいか
ハスモンヨトウ	フェニックス顆粒水和剤	フルベ`ンジ`アミト`水和剤	28		2000～4000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
ハダ`ニ類	アグ`リメック	アバ`メクチン乳剤	6	劇	500～1000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
	カネマイトフロアブ`ル	アセキ/シル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	1回	すいか
	ハ`ロックフロアブ`ル	エトキサゾ`ール水和剤	10B		2000倍	100～350% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	すいか
	モベ`ントフロアブ`ル	スピ`ロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか
					500倍	50mL/株	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	すいか
ミナミキイロアザ`ミウマ	ダ`ントツ水溶剤	クロチアニジ`ン水溶剤	4A		2000倍	100～300% ¹ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	すいか

すいか炭疽病対策

1 すいか炭疽病について

すいか炭疽病は、コレトリカムというカビの一種によって引き起こされる病気である。発病適温は 22～28℃で、湿度が高いと 24 時間以内に胞子が発芽し、48 時間以内に組織に侵入し、1週間以内に発病する。特に、降雨があると病斑状の胞子が飛散し、他の茎葉、果実に伝染し、蔓延する。露地栽培では、トンネルを除去したところから発病しはじめ、気温が低く、雨の多い年に多発する。また、窒素過多でも発生が多くなる。

2 防除対策

育苗期防除対策

- ・苗床やハウスでは多発することは少ない。
- ・苗床では高温多湿を避ける。
- ・苗床では発病前から予防散布を行い、健全な苗を確保する。
- ・発病を認めたら治療効果のある薬剤を7日おきに2～3回散布する。

圃場防除対策

- ・連作は避ける。排水の悪い圃場は、排水対策を実施する。
- ・降雨のはねかえりで感染するので、早めに敷きわらやポリマルチを行う。
- ・前年、炭疽病が発生した圃場は原則、作付けを避けるが、やむを得ず作付けする場合は、土壌消毒の実施や予防散布に努める。
- ・トンネル除去後は、感染の好適条件にもなることから、1 週間おきを目安に予防防除を行う。
- ・**ベンゾイミダゾール系剤(トップジン、ベンレート等)は耐性菌が発生しているので使用しない。**
- ・不要な側枝は早めに除去し、採光と通風しをよくする。摘果玉は圃場内に放置せず、圃場外に持ち出すか埋設する。
- ・降雨後は、薬剤散布量を十分取り、果実表面にも十分薬剤が付着するように散布する。
- ・炭疽病の発生を確認したら、治療効果のある薬剤を3～5日おきに少なくとも2～3回散布する。新しい病斑の形成がなくなったら、予防効果のある薬剤を7日おきに散布する。特に、果実付近の防除を徹底する。
- ・収穫時に降雨があった場合、果実表面が濡れたり土壌が付着したりしているものは、コンテナに積み込む前に固く絞ったタオルで十分拭き取る。
- ・収穫終了後、発病株の罹病部位(葉や果実)は圃場外に持ち出し、埋設する。

【参考】すいか炭疽病防除薬剤一覧

FRAC コード	農薬の名称	使用時期 (収穫何日 前まで)	その他の適用病害虫									効果	
			つる 枯 病	疫 病	褐斑 細菌 病	べ と 病	菌 核 病	うどん こ 病	褐色 腐敗 病	ハダ ニ 類	果実汚 斑細菌 病	予 防	治 療
M03	アントラコール顆粒水和剤	前日まで	○									○	
	ジマンダイセン水和剤	7日前まで	○	○	○	○						○	
M01	ドキンフロアブル	前日まで	○								○	○	
M01+M04	オキシラン水和剤	14日前まで	○									○	
M04	オーソサイド水和剤80	14日前まで	○			○						○	
M05	ダコニール1000	3日前まで	○									○	
4+M05	フオリオゴールド	7日前まで	○						○			○	○
11+M05	アミスターオブティフロアブル	3日前まで	○				○	○	○			○	○
11+7	シグナムWDG	前日まで	○				○	○	○			○	○
11	アミスター20フロアブル	前日まで	○									○	○
	ストロビーフロアブル	前日まで	○					○				○	○
2+M01	スクレタン水和剤	7日前まで	○		○		○					○	○
21+M05	ドーシャスフロアブル	3日前まで	○						○			○	○
M07	ベルグート水和剤	前日まで	○				○	○				○	
10+1	ゲッター水和剤	前日まで										○	○
3+M03	テーク水和剤	7日前まで	○					○				○	○
3	スコア顆粒水和剤	前日まで	○					○				○	○
10+1	ニマイバー水和剤	前日まで	○				○	○				○	○
11+M07	ファンベル顆粒水和剤	前日まで	○				○	○				○	○
40+M05	プロボーズ顆粒水和剤	3日前まで							○			○	○

*使用濃度、使用量、使用回数等は確認すること。

(6) メロン										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	ジ ーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
	バ ーレド 2070アブ ール	ビ ラジ ーフルミド 水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	う り 類(成熟)
	バ ンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	メロン
	ベ ージ セイバ ー	ベ ンチオビ ーラド ー・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	メロン
	モレスタン水和剤	モノキサリン系水和剤	"UN(I*)		100g/10a	5 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	常温煙霧	10回以内	メロン
					2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	10回以内	メロン
疫病	ジ ーマンダ ーイセン水和剤	マンゼ ーブ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
菌核病	バ ーレド 2070アブ ール	ビ ラジ ーフルミド 水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	う り 類(成熟)
つる枯病	ジ ーマンダ ーイセン水和剤	マンゼ ーブ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
	ダ ーコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	トップ ジ ーンMベ ースト	チオファネートメチルベ ースト剤	1		原液		発病初期 但し、収穫21日前まで	塗布	1回	メロン
	バ ーレド 2070アブ ール	ビ ラジ ーフルミド 水和剤	7		2000～4000倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内	3回以内	う り 類(成熟)
	ロバ ーラール水和剤	イブ ーロジ ーオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	メロン
斑点細菌病	Zボ ールト ー	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボ ールト ー	カスカ ーマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	コサイド ーボ ールト ー	銅水和剤	M1		1000倍		-	散布	-	野菜類
べと病	ジ ーマンダ ーイセン水和剤	マンゼ ーブ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	メロン
	ダ ーコニール1000	TPN水和剤	M5		700～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	メロン
	ベ ートファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベ ンチアバ ーリカルブ ーイソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	メロン
アブ ーラム類	オリオン水和剤40	アラニカルブ 水和剤	1A	劇	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
	サンマイト70アブ ール	ビ ーリダ ーベ ーン水和剤	21A	劇	1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	メロン
	ダ ーントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		1～2g/株		育苗期後半	株元処理	1回	メロン
					1～2g/株		定植後 但し、収穫前日まで	株元散布	3回以内	メロン
					1～2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン
	ブ ーリロッソ粒剤オメガ	シアントラニリブ ーロール粒剤	28		2g/株		育苗期後半～定植時	株元散布	1回	メロン
	ベ ーストガ ーード 粒剤	ニテンビ ーラム粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理土 1回		メロン
					1g/株		育苗期	株元処理	1回	メロン
カリメバ	オリオン水和剤40	アラニカルブ 水和剤	1A	劇	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	メロン
カリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	メロン
コナジ ラミ類	ダ ーントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		1～2g/株		育苗期後半	株元処理	1回	メロン
					1～2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン
	ベ ーストガ ーード 粒剤	ニテンビ ーラム粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン
					1g/株		育苗期	株元処理	1回	メロン
タネバ ーエ	ダ ーイアジ ーノン粒剤3	ダ ーイアジ ーノン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	メロン
トマトハモク ーリバ ーエ	ダ ーントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン
ネコバ ーセンチュウ	ネマキック粒剤	イミシアホス粒剤	1B		15～20kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回	メロン
ミナミキハアザ ミウマ	ダ ーントツ粒剤	クロチアニジン粒剤	4A		2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン
	ベ ーストガ ーード 粒剤	ニテンビ ーラム粒剤	4A		1～2g/株		定植時	植穴処理土 1回 壤混和	1回	メロン

(7) きゅうり										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオバトール水和剤	7		150g/10a	10％/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり
					2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		3000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		3000～5000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ハッパ乳剤	なたね油乳剤	「-」		200倍		-	散布	-	きゅうり
	バンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリフルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方メートル(床面積250㎡×高さ2m)当り50g(1錠)		収穫前日まで	くん煙(通常10～15時間)	4回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオバトール・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
					20g/100立方メートル(50㎡×高さ2m)	-	収穫前日まで	くん煙	3回以内	きゅうり
					50～100g/10a	5％/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	きゅうり
	ラリー水和剤	マイクロタニル水和剤	3		4000～8000倍	150～300％/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
疫病	ジマンダールイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
褐斑病	ジマンダールイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		3000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ブロードーズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベジセイバー	ベンチオバトール・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
菌核病	スミレックス水和剤	ブロシミドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	ベンレート水和剤	ベンゾニル水和剤	1		2000～3000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
黒星病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
炭疽病	ジマンダールイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
つる枯病	ジマンダールイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	トップジンMベースト	チオファネートメチルベースト剤	1		原液		発病初期	塗布	5回以内	きゅうり
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
苗立枯病	オーソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M4		800倍	2％/㎡	は種後から2～3葉期まで	灌注	5回以内	きゅうり
					種子重量の0.2～0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
苗立枯病(ピシウム菌)	タチカレン液剤	ヒドロキシイソキサゾール液剤	32		500～1000倍	3％/㎡	は種直後	土壌灌注	3回以内	きゅうり
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		750～1500倍	3％/㎡	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	きゅうり
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	きゅうり
灰色かび病	スミレックス水和剤	ブロシミドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	6回以内	きゅうり
					200g/10a	10％/10a	収穫前日まで	常温煙霧	2回以内	きゅうり
	フルビカくん煙剤	メバニピリムくん煙剤	9	劇	くん煙室容積500立方メートル(床面積250㎡×高さ2m)当り50g(1錠)		収穫前日まで	くん煙(通常10～15時間)	4回以内	きゅうり
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300％/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
					200g/10a	5％/10a	収穫前日まで	常温煙霧	4回以内	きゅうり

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
斑点細菌病	Zボ [®] ルト [®] -	銅水和剤	M1		500倍	100～300 ^g ℓ/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボ [®] ルト [®] -	カスガ [®] マイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	きゅうり
	コサイド [®] 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ザ [®] ンブ [®] ロDM7ロアブ [®] ル	アマトトラジ [®] ン・ジ [®] メトメル水和剤	40,45		1500～2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ストロビ [®] -7ロアブ [®] ル	クレソキシムメチル水和剤	11		3000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ゾ [®] -ベ [®] ックエンテクタSE	アミスルブ [®] ロム・オキサチアピ [®] ブ [®] ロリン水和剤	21,49		4000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	きゅうり
	タ [®] ユニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	12回以内	きゅうり
					33倍	10 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	常温煙霧	12回以内	きゅうり
	ブ [®] ロボ [®] -ス [®] 顆粒水和剤	ベ [®] ンチアハ [®] リカルブ [®] イソブ [®] ロビ [®] ル・TPN水和剤	40,M5		1000～1500倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベ [®] トファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベ [®] ンチアハ [®] リカルブ [®] イソブ [®] ロビ [®] ル水和剤	27,40		2000～3000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ランマン7ロアブ [®] ル	シアゾ [®] ファミド [®] 水和剤	21		1000～2000倍	150～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	きゅうり
	リド [®] ミルコ [®] -ールド [®] MZ	マンゼ [®] ブ [®] ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		1000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
アブラムン類	ベ [®] ストガード [®] 水溶剤	ニテンピ [®] ラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	ベ [®] ネビ [®] アOD	シアントラニブ [®] ロール水和剤	28		2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	モスビ [®] ラン顆粒水溶剤	アセタミブ [®] リド [®] 水溶剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	粘着くん液剤	デ [®] ンブ [®] ン液剤	「-」		100倍	150～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
オシツコナジ [®] ラミ	アテ [®] イオン乳剤	ベ [®] ルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	作条散布又は植穴処理	1回	きゅうり
オシツコナジ [®] ラミ幼虫	アブ [®] ロート [®] 水和剤	ブ [®] ブ [®] ロフェジ [®] ン水和剤	16		1000～2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
コナジ [®] ラミ類	モレスタン水和剤	キ/キサリン系水和剤	"UN(I*)		2000倍	100～300 ^g ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	きゅうり
タネバ [®] エ	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		4～6kg/10a		は種時	土壌表面散布土壌混和処理	1回	きゅうり
	タ [®] イアジ [®] ン粒剤3	タ [®] イアジ [®] ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	きゅうり

(8) かぼちゃ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
うどんこ病	シグナムWDG	ビラクトロピ ン・ボ スカリド 水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300 ^g /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	かぼちゃ
	パ ンチョTF顆粒水和剤	シフルフェナミド・トリアルミゾ ール水和剤	3,U6		2000倍	100～300 ^g /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	かぼちゃ
	モレスタン水和剤	キノキサリン系水和剤	"UN(I*)		2000～4000倍	100～300 ^g /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	かぼちゃ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300 ^g /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	かぼちゃ
ア ンシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300 ^g /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300 ^g /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
ウリハムシ幼虫	タ イジ ン粒剤3	タ イジ ン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付時	土壌混和	1回	かぼちゃ
タネバ イ	タ イジ ン粒剤3	タ イジ ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	かぼちゃ
ハダ ニ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300 ^g /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ
	マラソン粉剤3	マラソン粉剤	1B		3kg/10a		収穫前日まで	散布	5回以内	かぼちゃ

(9) いちご										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎黄病	ベンレート水和剤	ベンミル水和剤	1		500倍	-	仮植前	1～3時間苗根部浸漬	1回	いちご
					500倍	100mL/株	本圃定植後 但し、収穫30日前まで	灌注	1回	いちご
					500倍	50～100mL/株	育苗期	灌注	3回以内	いちご
うどんこ病	アフェットフロアブル	ベンチオレート 水和剤	7		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド 乳剤	「-」		300～600倍	150～500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類 (なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド 水和剤	11,7		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
					50倍	5g/10a	収穫前日まで	常温煙霧	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300g/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
	モレスタン水和剤	キナキサリ系水和剤	"UN(I*)		3000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
じゃのめ病	トリフミン水和剤	トリフルミール水和剤	3		3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	いちご
炭疽病	アントラコール顆粒水和剤	ブロビネブ 水和剤	M3		500倍	150～300g/10a	仮植栽培期	散布	6回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド 水和剤	11,7		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	ジマンダ イセン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300g/10a	仮植栽培期 但し収穫76日前まで	散布	6回以内	いちご
	セハイアーフロアブル20	フルジオソニル水和剤	12		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
灰色かび病	アフェットフロアブル	ベンチオレート 水和剤	7		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド 水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	スミレックス水和剤	ブロシミドン水和剤	2		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	セハイアーフロアブル20	フルジオソニル水和剤	12		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	フルビカフロアブル	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	いちご
	ボリオキシAL水和剤	ボリオキシ水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300g/10a	収穫開始14日前まで	散布	3回以内	いちご
	ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1500倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	4回以内	いちご
アブラムシ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	いちご
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	いちご
イチゴメソチュウ	ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300g/10a	育苗期	散布	4回以内	いちご
					1000倍	100～300g/10a	定植後生育初期	散布	4回以内	いちご
コガネムシ類幼虫	ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	2～3g/m ²	移植活着後(育苗期)	灌注	4回以内	いちご
ハダニ類	カネマイフロアブル	アセキノシル水和剤	20B		1000～1500倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	1回	いちご
	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	25A		1000倍	100～350g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご
	マイトコネフロアブル	ビフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	いちご

(10) キャベツ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	オルフィンフロアブル	フルオビラム水和剤	"「-」(I*)		2000～3000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	1回	キャベツ
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1000～1500倍	100～300㍺/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ネクスターフロアブル	イソビラザム水和剤	7		1000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	パレード 20フロアブル	ビラジフルミド 水和剤	7		100倍	セル成型育苗トレイ1箱または、 ペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍺) 当り0.5㍺	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					2000～4000倍	100～300㍺/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
黒腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300㍺/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
	オリゼート粒剤	ブロヘナゾール粒剤	P2		6～9kg/10a		定植時	全面土壌混和又は作条土壌混和	1回	キャベツ
	カスミンボルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ヨネブーン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300㍺/10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カスカイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	マスタース水和剤	シュートモナスロシア水和剤	「-(生)」		1000～2000倍	100～300㍺/10a	収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	ヨネブーン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	キャベツ
根こぶ病	ランマンフロアブル	シアザファミド 水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	キャベツ
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～7㍺)当り2㍺	定植前日～当日	灌注	1回	キャベツ
べと病	ジマンダイヤン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300㍺/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300㍺/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
アムシ	アキ乳剤	レビメクシン乳剤	6		1000～2000倍	100～300㍺/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	アファームエケテラ顆粒水和剤	エマメクシン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～2000倍	100～300㍺/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		16～24倍	0.8～1.6㍺/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ
					2000～4000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	グレースシア乳剤	フルキサメタミド 乳剤	30		2000～3000倍	100～300㍺/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300㍺/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	100～300㍺/10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジェリボフロアブル	クロラントラニリブ ロール・チアメトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2㍺	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍺)当り0.5㍺	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300㍺/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	スピノース顆粒水和剤	スピノサド 水和剤	5		2500～5000倍	100～300㍺/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000～2000倍	100～300㍺/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アオムシ	フェニックス顆粒水和剤	フルヘンジ アミド 水和剤	28		2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ブレイフロアブル	ヒリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ブレイフロアブル5	クロラントラニリブ ロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍈)当り0.5㍈	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
					500倍	苗地床1㎡当り2㍈	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	モスピラン粒剤	アセタミプリド 粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ
					1～2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ
アザミヤカ類	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍈)当り0.5㍈	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
アブラムシ類	モヘントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	アクタラ顆粒水溶剤	チアメキサム水溶剤	4A		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(30×60cm・使用土壌約3～4㍈)当り0.5㍈	育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍈)当り0.5㍈	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
	モスピラン粒剤	アセタミプリド 粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ
					1～2g/株		定植時	株元散布	1回	キャベツ
					1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ
カキハチ類	モヘントフロアブル	スピロテトラマト水和剤	23		2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
オオカバコガ	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ブレイフロアブル	ヒリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブ ロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
コガ	アタロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	アニキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	アフームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフエスロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	カスケード 乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		16～24倍	0.8～1.6㍈/10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ
					2000～4000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	グレースシア乳剤	フルキサメタミド 乳剤	30		2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クロラントラニリブ ロール・チアメキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2㍈	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4㍈)当り0.5㍈	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
セウタリ類	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド 水和剤	5		2500～5000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
コガ	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類 (パセリ、えごま(葉)を除く)
	トクチオン乳剤	ブロチホス乳剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ノーマルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		16倍	1.6 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	無人航空機による散布	2回以内	キャベツ
					2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	バダシオンSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	キャベツ
	ブレイブソフアプロ5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
					500倍	苗地床1㎡当り2 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	モスピラン粒剤	アセタミプリト粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	キャベツ
					1～2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	キャベツ
ネリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和处理	1回	キャベツ
	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	キャベツ
	デナボン5%ベイト	NAC粒剤	1A		3～6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	3回以内	キャベツ
	ネリエースK	イソキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	キャベツ
ハイダラノメイガ	アフームエクスラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェエロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジュリボフロアプロ	クロラントラニリブロール・チアメトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	マトリックフロアプロ	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	キャベツ
ハモシヨク	アケセルフロアプロ	メタフルミゾン水和剤	22B		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	アネキ乳剤	レピメクチン乳剤	6		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	コテツフロアプロ	クロルフェナヒル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ハクザップ水和剤	フェンハート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ブレイフロアプロ	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	キャベツ
	フロレアSC	フロラニリト水和剤	30		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
	マッチ乳剤	ルフェエロン乳剤	15		3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ヨトウムシ	アファームエケセラ顆粒水和剤	エマメクチン安息香酸塩・ルフェヌロン水和剤	15,6		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	2回以内	キャベツ
	ジエイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫30日前まで	散布	1回	キャベツ
	ジエイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	キャベツ
	ジュリボフロアブル	クロラントラニリブロール・チアメトキサム水和剤	28,4A		1000倍	苗地床1㎡当り2 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	は種時～育苗期後半	灌注	1回	キャベツ
					200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	キャベツ
					4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサト水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	キャベツ
	トレボン乳剤	エトフェンブロックス乳剤	3A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	キャベツ
	ハウザップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	5回以内	キャベツ
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミト水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ベネリアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	キャベツ
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	キャベツ

キャベツ コナガ防除対策

防除のポイント

- 1) 育苗時または定植時に薬剤処理を行い、初期防除を徹底する。
- 2) 老齢幼虫や蛹では薬剤の効果が劣るため、早期発見に努め若齢幼虫期に防除を行う。
- 3) 幼虫は葉の裏に生息するので、葉の裏まで薬剤がかかるように散布する。
- 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので同一系統の薬剤の連用は避け、系統をかえてローテーション散布を行う。

コナガに対する薬剤感受性 (2015 年、2018 年病害虫防除室調査)

○低 (ほとんどの地域で防除効果 50%以下) …有機リン系、カーバメート系

○地域によって変動するもの…ジアミド系

○高 (ほとんどの地域で防除効果 80%以上) …ピリダリル、ピレスロイド系

※抵抗性の発達程度は地域により差があるため、効果が不十分であれば、使用を避ける。

(散布 2～5 日後に幼虫が多数生息している場合は、抵抗性が発達した可能性が高い)

- 5) 性フェロモンでの防除も有効である (→フェロモン剤使用方法を参照)。
- 6) 収穫残さで増殖するため、できるかぎり早く処分する。
- 7) 圃場周辺に自生しているアブラナ科雑草は、本虫の発生源となるため、こまめな除草を心がける。

【参考】キャベツのコナガ防除薬剤一覧

IRAC コード	農薬名	使用時期	コナガ	アブラ ムシ類	アオ ムシ	ハス モン ヨトウ	ヨトウ ムシ	タマナギ ンウワバ	ハイマ ダラノ メイガ	オオタ バコガ
1 A	ランネート45DF	収穫14日前まで	○	○	○	○	○	○		
1B	オルトラン粒剤、ジェイエース粒剤	定植時	○	○	○		○			
	オルトラン水和剤、ジェイエース水和剤	収穫30日前まで	○	○	○	○	○	○		
	トクチオン乳剤	収穫21日前まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類		
	エルサン乳剤	収穫14日前まで	○	○	○	○	○		○	
3 A	トレボン乳剤	収穫3日前まで	○	○	○		○			
4 A	モスピラン粒剤	定植前日～定植当日	○	○	○	○			○	
5	スピノエース顆粒水和剤	収穫3日前まで	○		○		○	○	○	
	ディアナSC	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
6	アニキ乳剤	収穫3日前まで	○		○	○		○ウワバ類	○	○
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期 (収穫前日まで)	○		○	○	○			○
	トアロー水和剤CT	発生初期 (収穫前日まで)	○		○		○			
13	コテツフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○	○	○
14	バダシSG水溶剤	収穫14日前まで	○	○	○				○	
15	ノーモルト乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○		
	アタロン乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
	マッチ乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○		○	
	カスケード乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	○
22B	アクセルフロアブル	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
23	モベントフロアブル	収穫7日前まで	○	○	○					
28	ベネビアOD	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	○
	ブレバソン粒剤	育苗期後半～定植当日	○		○				○	
	ブレバソンフロアブル5	育苗期後半～定植当日	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
	ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○	○ウワバ類	○	
	フェニックス顆粒水和剤	収穫前日まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
30	グレース乳剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
UN	プレオフロアブル	収穫7日前まで	○		○	○	○	○ウワバ類	○	○
3A,1B	ハクサップ水和剤	収穫前日まで	○	○	○	○	○	○		○
6,15	アフームエクセラ顆粒水和剤	収穫7日前まで	○		○	○	○	○	○	
28, 4A	ジュリボフロアブル	は種時～育苗期後半	○	○	○	○	○		○	
		育苗期後半～定植当日	○	○	○	○	○		○	
		収穫3日前まで	○	○	○	○	○		○	○

※農薬の使用にあたっては、必ず使用濃度、使用量、使用回数等を確認する。

(11) ブロッコリー

(11) ブロッコリー										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
花蕾腐敗病	マスタビース水和剤	シュートモナスロデシア水和剤	「- (生)」		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	-	ブロッコリー
黒腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	カスミンボルトー	カスガマイシン・銅水和剤	24,M1		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ヨネボーン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	4回以内	ブロッコリー
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
根こぶ病	オラクル粉剤	アミスラブロム粉剤	21		20kg/10a		定植前	作条土壌混和	2回以内	ブロッコリー
					30kg/10a		定植前	全面土壌混和	2回以内	ブロッコリー
	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ブロッコリー
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～7 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$)当り2 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$	定植前日～当日	灌注	1回	ブロッコリー
アムシ	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ブレバゾンフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
					1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー
アブラムシ類	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
					1g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー
コナジラミ	アタフロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	スピノエース顆粒水和剤	スピノサド水和剤	5		5000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、 収穫前日まで	散布	-	野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期 但し収 穫前日まで	散布	-	野菜類(ハセリ、えごま(葉)を除く)
	ノモルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブロッコリー
	バクダングSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ブロッコリー
	ブレバゾンフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ブロッコリー
					2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブロッコリー
	モスピラン粒剤	アセタミプリド粒剤	4A		0.5～1g/株		定植前日～定植当日	株元散布	1回	ブロッコリー
					1～2g/株		定植時	植穴土壌混和	1回	ブロッコリー

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ネキリムシ類	タ`イアジ`ノン粒剤3	タ`イアジ`ノン粒剤	1B		6～9kg/10a		収穫30日前まで	土壌混和	2回以内	ブ`ロッコリ-
ハイマダ`ラノメイガ`	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300`% <sub>100</sub> /10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブ`ロッコリ-
ハスモンヨトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300`% <sub>100</sub> /10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ブ`ロッコリ-
	ブ`レオフロアブ`ル	ビ`リタ`リル水和剤	UN		1000倍	100～300`% <sub>100</sub> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブ`ロッコリ-
	ベ`ネビ`アOD	シアントラニリブ`ロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300`% ₁₀₀ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ブ`ロッコリ-
ヨトウムシ	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブ`ロッコリ-
	ジ`エイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		6kg/10a(2g/株)		定植時	株元散布	1回	ブ`ロッコリ-
	ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300`% <sub>100</sub> /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ブ`ロッコリ-

(12) かぶ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		20～40kg/10a		は種前	作条施用土 壤混和	1回	かぶ
	ネビジン粉剤	フルスファミド 粉剤	36		20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混 和	1回	かぶ
					30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ
	フロンサイト 粉剤	フルアジナム粉剤	29		30～40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混 和	1回	かぶ
アオムシ	トアロ-フロアブールCT	BT水和剤	11A		1000～2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	マラソン乳剤50	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
カブラハチ	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	かぶ
キスジノミハムシ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(I*)	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
	フォース粒剤	テフルトリン粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種時	播溝土壌混 和	1回	かぶ
	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリト 水溶剤	4A	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	1回	かぶ
コナガ	トアロ-フロアブールCT	BT水和剤	11A		1000～2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
ハイマダラメイガ	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト 乳剤	"21A(I*)	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	1回	かぶ
ヨウムシ	トアロ-水和剤CT	BT水和剤	11A		500～1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し収穫 前日まで	散布	-	野菜類(パ セリ、えご ま(葉)を 除く)

(13) だいこん										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
亀裂褐変症(リゾクト菌)	バシタック水和剤75	メフロニル水和剤	7		1000～1500倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	だいこん
	バリダシン粉剤DL	バリダマイシン粉剤	U18		20kg/10a		収穫7日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
黒斑細菌病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
白さび病	ビシロックフロアブル	ビカルブトリン水和剤	U17		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
軟腐病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキシニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	だいこん
	バイオキーマー水和剤	非病原性エルビニアカクトボリーラ水和剤	- (生)		500～2000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
ワッカ症	ビシロックフロアブル	ビカルブトリン水和剤	U17		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	だいこん
アオムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
アブラムシ類	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～4kg/10a		は種前	作条散布	1回	だいこん
	ジエイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～4kg/10a		は種前	作条散布	1回	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	6回以内	だいこん
キスジノミハムシ	フォース粒剤	テフルトリン粒剤	3A	劇	4～9kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	だいこん
					6～9kg/10a		は種時	全面土壌混和	1回	だいこん
					6kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	だいこん
コナガ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	バダソSG水溶剤	カルタップ水溶剤	14	劇	1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん
	プレオフロアブル	ビリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	ランネート45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時	土壌表面散布土壌混和処理	1回	だいこん
	デナボン5%ペイト	NAC粒剤	1A		3～6kg/10a		収穫30日前まで	株元散布	4回以内	だいこん
	ネキリエースK	イソキサチオン粒剤	1B		3kg/10a		は種時又は定植時	土壌表面株元処理	1回	だいこん
ネグサレセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビークラム粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
ネコブセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん
	ビークラム粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	だいこん

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ハイマダラメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	だいこん
	トルネード エースDF	インドキサカルブ水和剤	22A		2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	だいこん
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
ヨトウムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	だいこん
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300g/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫35日前まで	散布	3回以内	だいこん
	ベネビアOD	シアントラニリブロール水和剤	28		4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	だいこん
	マトリックフロアブル	クロマフェノジド水和剤	18		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	だいこん

(14) はくさい										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	スターナ水和剤	オキシニック酸水和剤	31		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	バクイカーバー水和剤	非病原性エルビニアカロトバース水和剤	「- (生)」		500～2000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		500倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	はくさい
根くびれ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		30～40kg/10a		は種又は定植前	作条施用土壌混和	1回	はくさい
根こぶ病	ダコソイル	TPN粉剤	M5		10g/植穴1穴		は種又は定植前	植穴処理土壌混和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面施用土壌混和	1回	はくさい
					30kg/10a		は種又は定植前	作条施用土壌混和	1回	はくさい
	ネビジン粉剤	フルスファミド粉剤	36		20～30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混和	1回	はくさい
					20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混和	1回	はくさい
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		15～20kg/10a		は種又は定植前	作条土壌混和	1回	はくさい
					30～40kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混和	1回	はくさい
	ランマンフロアブル	シアゾファミド水和剤	21		2000倍	250mL/株	収穫14日前まで	株元灌注	1回	はくさい
					500倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパポット1冊(30×60cm、使用土壌約2.5～7g)当り2g	定植前日～当日	灌注	1回	はくさい
白斑病	シグナムWDG	ビラクストロピン・ボスカリド水和剤	11,7		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ペンレート水和剤	ペノミル水和剤	1		2000～3000倍	100～300mL/m ²	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
					2000～3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
べと病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
アムシ	アタフロン乳剤	クロルフルアスロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクサップ水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	ブレオフロアブル	バリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ブレバソンフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはペーパポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4g)当り0.5g	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	はくさい
					2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500～2000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ベリマークSC	シアントラニリブ ロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベーバーポット1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		1000～3000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
コナジラミ	アタック ロン乳剤	クロルフルアス ロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～1500倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	トアローフロアブルCT	BT水和剤	11A		1000～2000倍		発生初期 但し 収穫 前日まで	散布	-	野菜類
	ノモルト乳剤	テフルベンス ロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	バクターSG水溶剤	カルタップ 水溶剤	14	劇	1500倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	はくさい
	ブレイバソフロアブル5	クロラントラニリブ ロール水和剤	28		100倍	セル成型育苗トレイ1箱 またはベーバーポット1 冊(約30×60cm、使用 土壌約1.5～4g) 当り0.5g	育苗期後半～定植 当日	灌注	1回	はくさい
ネキリムシ類	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散 布土壌混和	1回	はくさい
	デナボーン5%ベイト	NAC粒剤	1A		3～6kg/10a		収穫21日前まで	株元散布	3回以内	はくさい
ハイマダラノメイガ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	はくさい
ヨトウムシ	アタック ロン乳剤	クロルフルアス ロン乳剤	15		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	はくさい
	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	オルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	コテツフロアブル	クロルフェナピル水和剤	13	劇	2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	はくさい
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B		1500倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	1回	はくさい
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		定植時	植穴処理	1回	はくさい
	ハクザップ 水和剤	フェンバレート・マラソン水和剤	1B,3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	5回以内	はくさい
	ブレイフロアブル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	はくさい
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	はくさい

(15) 非結球あぶらな科葉菜類

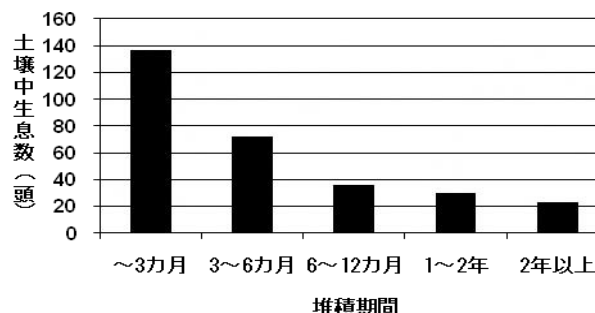
RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
白斑病	ベンレート水和剤	ベンゾミル水和剤	1		4000倍	100～300mL/㎡	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
					4000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	収穫21日前まで	散布	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(みずな、チンゲンサイを除く)
根こぶ病	オラクル粉剤	アミスターロム粉剤	21		20～30kg/10a		は種前又は定植前	全面土壌混和	2回以内	非結球あぶらな科 葉菜類
アオムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
アブラムシ類	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(チンゲンサイを除く)
キスジノミハムシ	アルパリン粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(チンゲンサイを除く)
	スタークル粒剤	ジノテフラン粒剤	4A		6kg/10a		は種時	播溝土壌混和	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(チンゲンサイを除く)
	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇	4kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	非結球あぶらな科 葉菜類(からしなを除く)
コナガ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科 葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
ハスモンヨトウ	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	非結球あぶらな科 葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類を除く)
ヨトウムシ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11(A)		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		500～1000倍	100～300 $\frac{1}{2}$ g/10a	発生初期 但し収穫前日まで	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)

(16) ほうれんそう											RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
苗立枯病(リゾクトニア菌)	バシタック水和剤75	メフロニル水和剤	7		1000倍	-	は種前	24時間種子浸漬	1回	ほうれんそう	
					200倍	-	は種前	1時間種子浸漬	1回	ほうれんそう	
					750～1500倍	3ℓ/㎡	は種時～子葉展開時	土壌灌注	1回	ほうれんそう	
					種子重量の0.4%	-	は種前	種子粉衣	1回	ほうれんそう	
べと病	ビシロックフロアブル	ビカルボトランス水和剤	U17		1000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ほうれんそう	
	フェスティバル水和剤	ジメトモルフ水和剤	40		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ほうれんそう	
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ほうれんそう	
シロアゲノメイガ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう	
ハスモンヨトウ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう	
ホウレンソウナガタニ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう	
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	4000～6000倍	100～300ℓ/10a	2葉期まで 但し、収穫14日前まで	散布	1回	ほうれんそう	
	コテツハイト	クロルフェナビル粒剤	13		3～6kg/10a		は種時～2葉期まで 但し、収穫14日前まで	全面土壌散布	1回	ほうれんそう	
マメハモグリバエ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ほうれんそう	
ヨトウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300ℓ/10a	収穫21日前まで	散布	1回	ほうれんそう	
	ノーマルト乳剤	テフルベンスロン乳剤	15		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ほうれんそう	

ハウレンソウケナガコナダニの総合的防除

ハウレンソウケナガコナダニ（以下「コナダニ」）の防除は、化学農薬の散布が一般的であるが、ハウレンソウに登録のある農薬は少なく、生育後半には使用できないため、農薬散布に代わる耕種的防除技術を導入した総合的防除体系を実践する。



1 完熟堆肥の施用

1年以上堆積した完熟堆肥は、施用後のコナダニの生息数の増加を低く抑えることができる。

堆積期間が3ヵ月未満の未熟な堆肥を施用するとコナダニの生息数が増加するので使用しない。(図1)

2 品種の選定

開張性の品種は株間の湿度が高くなり、コナダニの生育数が増加する。コナダニの被害発生には、品種間差が大きい。

発芽揃いが良く、草姿が立性の品種を使用すると、被害を低く抑えることができる。(表1)

3 水管理による防除

土壌タイプでは、砂壤土の方が水持ちの良い粘質土より被害の発生が多くなる。

コナダニは、土壌が乾燥するとハウレンソウに移動し被害を出す。かん水チューブを2列間隔で下向きに設置し、収穫7日前まで土壌表面だけが湿る程度の少量かん水を続けることによって、コナダニの土壌中からハウレンソウ株への移動を減らし、被害を抑制することができる。(表2)

表1 主要品種のコナダニによる被害発生状況

品種名	草姿	は種7日後 発芽率(%)	収穫時の 被害株率 (%)
アクティオン	開張性	37.8	23.0
トリトン	開張性	78.6	14.2
リード	半立性	45.2	20.8
アンナ	半立性	76.4	9.4
ミラージュ	立性	82.4	4.2
トラッド7	立性	86.8	4.4
クロノス	立性	82.0	3.0

表2 土壌タイプおよび灌水方法とコナダニの被害の発生

処理区	土壌中の生息密度 (頭)		収穫時の 被害株率 (%)	収穫時の草丈 (cm)
	は種前	収穫期		
慣行(砂壤土)	19.8	78.0	19.2	28.7
慣行(粘質土)	18.2	39.2	8.0	32.6
かん水多(砂壤土)	18.4	27.6	7.2	33.9
かん水チューブ下向き	19.2	24.8	5.2	31.0

4 播種直前の土壌中のコナダニの生息密度と防除の目安

福井県農業試験場が開発した簡易な土壌中生息密度計測法(※)による生息密度が5頭以上の時、収穫時の被害株率は約10%となり化学農薬による防除が必要である(図2)。播種前の土壌中のコナダニの生息密度を調査することによって、防除の要否を判断することができる。

5 化学的防除の効果の向上

殺虫剤を散布する際、機能性展着剤であるアプローチB Iを添加すると土壌中のコナダニの死虫率が高くなり、防除効果が向上する。

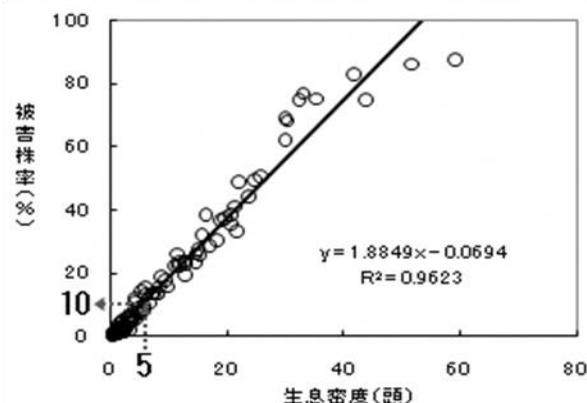


図2 土壌中のコナダニの生息密度と被害の関係

※コナダニの簡易な土壌中生息密度計測法

- 1) 土200g(※1)を採取し、チャック式ビニール袋に入れ、平らに広げる。
- 2) シール式耐水紙(直径5cmの円形に切り取る)の粘着面に乾燥酵母を均一につけ、酵母面が内側になるように二つに折り(トラップ)、図のように土の上に3枚並べる。
- 3) 新聞紙をかけて室温(※2)で3日間静置し、ルーペでトラップの内側に集まったコナダニ頭数を数える。トラップ一枚あたり5頭以上で要防除水準である。

注1 土はビニール袋の内側が少し曇ってくる程度の軽い湿りをもたせる。湿りすぎは×。

注2 室温は20～25℃ 新聞紙は暗くするためにかける。

図



(17) ねぎ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
萎凋病	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーパーット1冊(30×60cm、使用土壌約5%	定植前	苗床灌注	1回	ねぎ
					50倍	-	定植直前	5～30分間苗根部浸漬	1回	ねぎ
黒斑病	アミスター207フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
さび病	アミスター207フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	オンリーワンフロアブル	テフコナゾール水和剤	3		1000倍	150～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジオパーット水和剤	ボリオキシン水和剤	"「-」(I*)		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ストロビーフロアブル	クレソキシメチル水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	バレード207フロアブル	ビラジフルミド水和剤	7		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラド・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	メジャーフロアブル	ビコキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ラリー水和剤	ミクロブタニル水和剤	3		2000倍	150～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
白絹病	アフエットフロアブル	ベンチオビラド水和剤	7		1000～2000倍	1%/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	2回以内	ねぎ
					2000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ジオパーット水和剤	ボリオキシン水和剤	"「-」(I*)		500倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ディートラベックス油剤	メチルイソチオシアネート・D-D油剤	「-」→8A,「-」→8F,8A,8F	劇	30～40%/10a		は種又は植付の14日前まで	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。	1回	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラド・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	モンカト粒剤	フルタニル粒剤	7		4～6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	4回以内	ねぎ
軟腐病	モンカリット粒剤	シメコナゾール粒剤	3		4～6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫14日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ
	オリゼート粒剤	ブロヘナゾール粒剤	P2		6kg/10a		土寄せ時 但し、収穫30日前まで	株元散布	2回以内	ねぎ
	ヨネブソ水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
葉枯病	アミスター207フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
べと病	アミスター207フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	テーク水和剤	シメコナゾール・マンゼブ水和剤	"UN(I*),3		600倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ビシロックフロアブル	ビカルブトラゾックス水和剤	U17		1000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	鱗茎類
	ブローズ顆粒水和剤	ベンチアバリカルブイソプロピル・TPN水和剤	40,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベジセイバー	ベンチオビラド・TPN水和剤	7,M5		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	リドミルゴールドMZ	マンゼブ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		1000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アザミウマ類	アルハリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000倍	1ℓ/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4ℓ/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0ℓ)当り0.5ℓ	定植前日～定植時	灌注	1回	ねぎ
	アベンジヤーフロアブル ファインセーブフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	グレースIA乳剤	フルキサメタト乳剤	30		2000～3000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		1000倍	1ℓ/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					2000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
					400倍	0.4ℓ/m ²	生育期 但し、収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					50倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(30×60cm・使用土壌約1.5～4.0ℓ)当り0.5ℓ	定植前日～定植時	灌注	1回	ねぎ
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700～1000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	ハチハチ乳剤	トルフェンビラト乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	0.5ℓ/m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半～定植	灌注	1回	ねぎ
シロイモシヨトウ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ねぎ
	ブレバソフフロアブル5	クロラントラニリアロール水和剤	28		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ベリマークSC	シアントラニリアロール水和剤	28		2000倍	0.5ℓ/m ²	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り0.5ℓ	育苗期後半～定植	灌注	1回	ねぎ
タネバエ	ダイヤジン粒剤3	ダイヤジン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	ねぎ
ネギアザミウマ	アベイル粒剤	アセタミプリト・シアントラニリアロール粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4ℓ)当り40g		育苗期後半～定植 当日	株元散布	1回	ねぎ
	ウララDF	フロニカミド水和剤	29		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	ねぎ
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300ℓ/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾール水和剤	9B		2000倍	100～300ℓ/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	ねぎ
	リーフガード顆粒水和剤	チオスクラム水和剤	14	劇	1500倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ネギコガ	グレースIA乳剤	フルキサメタト乳剤	30		2000～3000倍	100～300ℓ/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
ネギ・ハメガリバエ	アペール粒剤	アセタミプリド・シアントラニリブロール粒剤	28,4A		セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4%)当り40g		育苗期後半～定植当日	株元散布	1回	ねぎ
	アベンジャーフロアブル ファインセーバーフロアブル	フロメキン水和剤	34	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300%/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	ねぎ
	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	13	劇	2000倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ダブールシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	鱗茎類 (にら、にら(花茎)を除く)
	ディアナSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300%/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	ねぎ
	リーファード顆粒水和剤	チオシクロム水和剤	14	劇	1500倍	100～300%/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
ネギニ類	アプロートフロアブル	プロプロフェンシン水和剤	16		500～1000倍	1～3%/㎡	収穫14日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
	ラグビーマC粒剤	カスサホスマイクロカプセル剤	1B		20kg/10a		定植前	全面処理土壌混和	1回	ねぎ
ハメガリバエ類	グレースIA乳剤	フルキサメタミド乳剤	30		2000～3000倍	100～300L/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	ねぎ
	ブリーロツ粒剤オメガ	シアントラニリブロール粒剤	28		6kg/10a		収穫前日まで	株元散布	3回以内	ねぎ
	ペリマークSC	シアントラニリブロール水和剤	28		2000倍	0.5%/㎡	収穫7日前まで	株元灌注	1回	ねぎ
					400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4%)当り0.5%	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ
	ミネクトデュオ粒剤	シアントラニリブロール・チアメトキサム粒剤	28,4A		6kg/10a		収穫3日前まで	株元散布	3回以内	ねぎ
					6kg/10a		定植時	作条散布	1回	ねぎ
					6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	ねぎ
					セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4%)当り40g		育苗期後半	散布	1回	ねぎ
	ヨーハールフロアブル	テトラニリブロール水和剤	28		200倍	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパースト1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4%)当り0.5%	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	ねぎ
					2500～5000倍	100～300%/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	ねぎ
					25倍	1.6%/10a	収穫3日前まで	無人航空機による散布	3回以内	ねぎ
展着剤	ドライバー	展着剤			2～10mL/散布液10% (1000～5000倍)			添加		野菜類

新しい病気ネギ褐色腐敗病の防除対策

1 はじめに

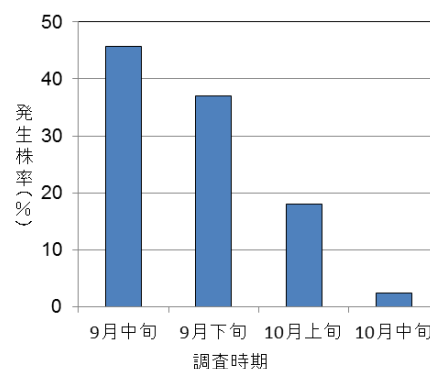
ネギは本県の水田園芸の基幹作物ですが、最近、褐色腐敗病が問題となっています。本病は葉鞘軟白部に褐色の条斑が発生する病気で、品質低下だけでなく、収量も低くなります(図1)。高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に雨が続く時に、ヨネポン水和剤で軟腐病を防除すると本病も少なくなります。しかし、本病での登録はありません。そこで、耕種的な防除法を紹介します。



図1 軟白部褐色条斑症状

2 作型

本病は高温多湿条件で発生がしやすくなることから、8～9月に多発生するので(図2)、10月上旬までに収穫する作型では被害が問題となります。



3 品種

発生が心配される圃場では、夏扇パワー、夏の宝山の品種を植付けると発生を少なくすることができます(図3)。

4 消石灰とオオムギ緑肥施用

消石灰とオオムギ緑肥を土壌に混和すると病原菌密度が低くなる傾向があります。5月下旬にネギの条間にオオムギを播種すると、7月上旬には生育が旺盛となり、8月上旬には枯上がりします。8月上旬にオオムギを刈取り、消石灰を200 kg/10a 施用し、8月中旬に同時にすき込むと、発病株率は7%と無処理区の約半分にすることができます。可販収量もわずかに増加します。また、消石灰の単独施用でも発病株率は8.2%と無処理より発生が少なくなります(表1)。

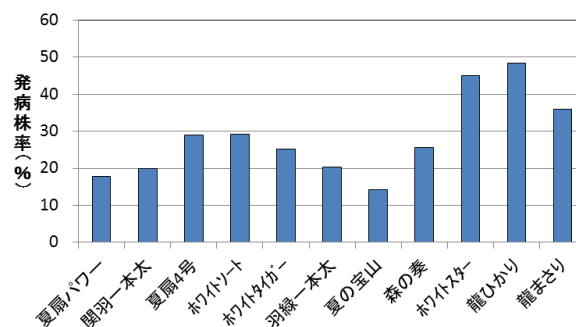


図3 各品種におけるネギ褐色腐敗病発生状況

ネギ褐色腐敗病の防除は作型、品種、消石灰およびオオムギ緑肥を組み合わせることによって総合的な対策が必要です。また、オオムギは天敵を保護するバンカープランツとしての効果が期待されます。

表1 消石灰とオオムギ緑肥による褐色腐敗病防除効果

処 理	調査株数	発病株率 (%)	収穫量 (kg/10a)	比率	可販収量 (kg/10a)	比率
消石灰	561	8.2	2845	100	2097	100
オオムギ緑肥	532	8.5	2947	104	2178	104
消石灰+オオムギ緑肥	557	7.0	2920	103	2128	102
無処理	558	15.6	2831	100	2092	100

(18) たまねぎ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
白色疫病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアハ リカルブ イソブ ロ ビ ル水和剤	27,40		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リド ミルコ ールト MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
べと病	ジマンダ イセン水和剤	マンゼ プ 水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫3日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
	ベトファイター顆粒水和剤	シモキサニル・ベンチアハ リカルブ イソブ ロ ビ ル水和剤	27,40		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
	リド ミルコ ールト MZ	マンゼ プ ・メタラキシルM水和剤	"UN(I*),4		500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
灰色かび病	スミレックス水和剤	ブ ロシミト ン水和剤	2		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫前日まで	散布	5回以内	たまねぎ
					16倍	2.4 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫前日まで	無人航空機による散布	5回以内	たまねぎ
	ダ コニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	6回以内	たまねぎ
	ロブ ラール水和剤	イブ ロジ オン水和剤	2		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
軟腐病	ヨネホ ン水和剤	ノニルフェノールスルホン酸銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	5回以内	たまねぎ
アザミウマ類	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		700～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫21日前まで	散布	2回以内	たまねぎ
	モスビ ラン顆粒水溶剤	アセタミブ リト 水溶剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	3回以内	たまねぎ
タネバエ	ダ イアジ ン粒剤3	ダ イアジ ン粒剤	1B		5～8kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
タネバエ	ダ イアジ ン粒剤3	ダ イアジ ン粒剤	1B		3～5kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	たまねぎ
ネギ アザミウマ	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{10a}}$	収穫7日前まで	散布	4回以内	たまねぎ

(19) らっきょう											RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
乾腐病	ディ・トラベックス油剤	メチルイソチオシアネート・D-D油剤	「-」→ 8A, 「-」 → 8F,8A,8 F	劇	30～40%	10a	は種又は植付の21 日前まで	圃場を耕起・整地 した後、所定量を 深さ約12～15cm に注入し、直ちに 覆土・鎮圧する。 薬剤処理7～14日 後にガス抜き作業 を行う。	1回	らっきょう	
	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	3		50倍	-	植付前	5～30分間種球浸漬	1回	らっきょう	
	ベンレートT水和剤20	チウム・ベンジル水和剤	1,M3		200倍	-	植付前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう	
	ベンレート水和剤	ベンジル水和剤	1		500倍	-	植付直前	30分間種球浸漬	1回	らっきょう	
白色疫病	フオリゴールT	メタキシム・TPN水和剤	4,M5		1000倍	100～400%	10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
	フロンスイト 水和剤	フルアジナム水和剤	29		1000倍	100～300%	10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ベトファイト顆粒水和剤	シモキサンル・ベンチアハリカルブ・イソプロピル水和剤	27,40		2000倍	100～300%	10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	らっきょう
さび病	アミスター207ロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300%	10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	らっきょう
灰色かび病	フロンスイト 水和剤	フルアジナム水和剤	29		2000倍	100～300%	10a	収穫14日前まで	散布	5回以内	らっきょう
	ロブテール水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300%	10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	らっきょう
ネマニ	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		15kg/10a		植付前	植溝土壌混和	1回	らっきょう	
ネマニ類	トクチオン細粒剤F	プロチオホス粉粒剤	1B		6kg/10a		定植時	植溝土壌混和	1回	らっきょう	
	フォース粒剤	テフルトリン粒剤	3A	劇	6～9kg/10a		収穫14日前まで	株元散布	1回	らっきょう	
					9kg/10a		定植前	植溝土壌混和	1回	らっきょう	
					9kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回	らっきょう	

(20) にんにく										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
さび病	アミスター20フロアブル	アゾキストロビン水和剤	11		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
	シガラムWDG	ピラクロストロビン・ボスカルド水和剤	11,7		1500倍	100～300g/10a	収穫3日前まで	散布	3回以内	にんにく
	ストロビーフロアブル	クレスキシムメチル水和剤	11		2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんにく
葉枯病	コサイド 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	にんにく
春腐病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	6回以内	にんにく

(21) レタス・非結球レタス

レタス

										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
菌核病	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
					1500倍	1.5 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	収穫45日前まで	灌注	1回	レタス
	ベンレート水和剤	ベンザル水和剤	1		2000～3000倍	100～300mL/ m^2	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
					2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	レタス
	ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
黒腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	野菜類
すそ枯病	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	レタス
	バリダシン液剤5	バリダマイシン液剤	U18		800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫前日まで	散布	3回以内	レタス
	フロンサイト 粉剤	フルアジナム粉剤	29		30kg/10a		は種又は定植前	全面土壌混和	1回	レタス
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	野菜類
灰色かび病	スミレックス水和剤	ブロシメドン水和剤	2		1000～2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	レタス
	ロブテール水和剤	イブロジオン水和剤	2		1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
腐敗病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	レタス
べと病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	レタス
オオカビ	ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはベーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	レタス
ネキリムシ類	カルホス微粒剤F	イソキサチオン粉粒剤	1B	劇	6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	カルホス粉剤	イソキサチオン粉剤	1B		6kg/10a		は種時又は植付時	土壌表面散布土壌混和	2回以内	レタス
	ダリアジノン粒剤3	ダリアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		は種時又は植付時	土壌混和	2回以内	レタス
ハスモンヨトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス
	ベリマークSC	シアントラニプロール水和剤	28		400倍	セル成型育苗トレイ1箱またはベーパーポット1冊 (約30×60cm、使用土壌約1.5～4 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$)当り0.5 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$	育苗期後半～定植当日	灌注	1回	レタス
ヨトウムシ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	収穫21日前まで	散布	2回以内	レタス

非結球レタス

										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
軟腐病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	野菜類 (キャベツを除く)
腐敗病	Zボルトー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{a}}$ /10a	-	散布	-	非結球レタス
ネキリムシ類	ダリアジノン粒剤5	ダリアジノン粒剤	1B		6kg/10a		は種時又は定植時	全面土壌混和又は作条土壌混和	2回以内	非結球レタス

(22) にんじん										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒葉枯病	Zボルドー	銅水和剤	M1		500～800倍	100～300㍈/10a	-	散布	-	にんじん
	コサイドボルドー	銅水和剤	M1		1000倍		-	散布	-	にんじん
	シグナムWDG	ビラクトロビン・ボスカリド水和剤	11,7		2000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ボリアキシンAL水和剤	ボリアキシン水和剤	"「-」(I*)		500倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	にんじん
軟腐病	コサイド3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300㍈/10a	-	散布	-	野菜類
	スターナ水和剤	オキソニック酸水和剤	31		1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	にんじん
アブラムシ類	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
キアゲハ	ベネビオOD	シアントラニリブロール水和剤	28		4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	マラソン乳剤	マラソン乳剤	1B		2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	にんじん
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミダホス粒剤	1B		10～15kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ネマクリン粒剤	フルオビラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビークラム粒剤	フルオビラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ネコブセンチュウ	ネマクリン粒剤	フルオビラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
	ビークラム粒剤	フルオビラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		は種前	全面土壌混和	1回	にんじん
ハモシヨトウ	ベネビオOD	シアントラニリブロール水和剤	28		4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん
ヒョウタンゴウムシ類	アケセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	22B		1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
ヨトウムシ	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	15		4000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	2回以内	にんじん
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)
	ベネビオOD	シアントラニリブロール水和剤	28		4000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	にんじん
	ランネット45DF	メソミル水和剤	1A	劇	1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	にんじん

(23) 未成熟そらまめ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
赤色斑点病	ロブラル水和剤	イプロジオン水和剤	2		1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
輪紋病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
アブラムシ類	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		3000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	未成熟そらまめ
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	未成熟そらまめ

(24) えだまめ											RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
茎疫病	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
		M水和剤				8mL					
黒根腐病	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
		M水和剤				8mL					
紫斑病	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
		M水和剤				8mL					
苗立枯病(ヒシム菌)	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
アブラムシ類	クルーザ―FS30	チアメトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
カメシ類	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ	
	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
ダニ・サヤタバコイ	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
タネバエ	クルーザ―FS30	チアメトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
ネキリムシ類	クルーザ―FS30	チアメトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
フタスジヒメハムシ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ	
	アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
	クルーザ―FS30	チアメトキサム水和剤	4A		乾燥種子1kg当り原液6mL		は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
	クルーザ―MAXX	チアメトキサム・フルジ― オキシニル・メタラキシル	12,4,4A		原液	乾燥種子1kg当り	は種前	塗沫処理	1回	えだまめ	
	スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	4A		3000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	えだまめ	
マメシクイガ	アグロスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	えだまめ	

(25) とうもろこし

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
アブラムシ類	アクトスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	とうもろこし
	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	とうもろこし
アワノメイガ	アクトスリン乳剤	シベルメトリン乳剤	3A	劇	1000～2000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	とうもろこし
	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	とうもろこし
	エルサソ乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	とうもろこし
	ベネビアOD	シアントラニリアロール水和剤	28		2000～4000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	未成熟とうもろこし
アワヨトウ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	4回以内	とうもろこし
ネキリムシ類	ガードベイトA	ベルメトリン粒剤	3A		3kg/10a		生育初期	株元散布	4回以内	とうもろこし

(26) ばれいしょ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		500～1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
	フロンサイト水和剤	フルアジナム水和剤	29		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					500倍	25㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
					800倍	40㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
黒あざ病	バリダシン粉剤DL	バリダマイシン粉剤	U18		種いも重量の0.3%		植付前	種いも粉衣	1回	ばれいしょ
	リゾレックス水和剤	トルクロスメチル水和剤	14		50～100倍	-	貯蔵前又は植付け前	種いも浸漬(10分以内)	1回	ばれいしょ
そうか病	アタッキン水和剤	ストレプトマイシン・チオファネートメチル水和剤	1,25		40～60倍	-	植付前	5～10秒間種いも浸漬	1回	ばれいしょ
					40倍	種いも100kg当たり2.5～3㍈	植付前	種いも散布	1回	ばれいしょ
	フロンサイト粉剤	フルアジナム粉剤	29		30～40kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	ばれいしょ
軟腐病	アゲリマイシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	25,41		1000～1600倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	5回以内	ばれいしょ
アブラムシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
	カルトラン粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a(1～2g/株)		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
	ジェイエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		3～6kg/10a		植付時	作条散布	1回	ばれいしょ
カダ	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ
テントウムシダマシ幼虫	カルトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300㍈/10a	収穫30日前まで	散布	2回以内	ばれいしょ
テントウムシダマシ類	アデイオン乳剤	ベルメトリン乳剤	3A		2000～3000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	4回以内	ばれいしょ
ネキリムシ類	ダイアジノン粒剤3	ダイアジノン粒剤	1B		6～9kg/10a		植付前	土壌混和	1回	ばれいしょ

(27) かんしょ										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
黒斑病	ベンレート水和剤20	チラム・ベンミル水和剤	1,M3		200倍	-	植付前	30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					20倍	-	植付前	1分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
	ベンレート水和剤	ベンミル水和剤	1		500～1000倍	-	植付前	20～30分間苗基部浸漬	1回	かんしょ
					種いも重の0.4%	-	植付前	種いも粉衣	1回	かんしょ
アブラムシ類	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
コガネムシ類幼虫	ダリアジノン粒剤3	ダリアジノン粒剤	1B		5～10kg/10a		作付前及び収穫30日前まで	土壌混和	3回以内	かんしょ
ナガジロシバ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハスモンヨトウ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	かんしょ
ハリガネムシ類	フォース粒剤	テフルリン粒剤	3A	劇	9kg/10a		植付前	全面土壌混和又は作条土壌混和	1回	かんしょ

(28) さといも										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
疫病	アミスター20フロアブル	アゾキシストロビン水和剤	11		2000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
	カンパネラ水和剤	ベンチアザリカルブイソプロピル・マンネゼブ水和剤	"UN(I*),40		1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも
	ジーファイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500㍈/10a	収穫前日まで	散布	-	さといも
	ダイナモ顆粒水和剤	アミスルフロム・シモキサニル水和剤	21,27		2000倍	100～300㍈/10a	収穫21日前まで	散布	3回以内	さといも
	ビシロックフロアブル	ピカルブトラゾクス水和剤	U17		1000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも
	ランマンフロアブル	シアゾファミト水和剤	21		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	2回以内	さといも
	黒斑病	ベンレートT水和剤20	チウラム・ベノミル水和剤	1,M3		20倍	-	植付前	1分間種いも浸漬	1回
					種いも重量の0.4～0.5%	植付前	種いも粉衣	1回	さといも	
アブラムシ類	アドマイヤ-1粒剤	イミダクロプリド粒剤	4A		4kg/10a		植付時	植溝土壌混和	1回	さといも
					4kg/10a	植付時	植溝土壌混和	1回	さといも(葉柄)	
	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
カンザワハダニ	ビラニカEW	テブフェンビラト乳剤	"21A(I*)	劇	2000倍	150～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	1回	さといも
ハスモンヨトウ	エルサン乳剤	PAP乳剤	1B	劇	1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	エルサン粉剤2	PAP粉剤	1B		3kg/10a		収穫7日前まで	散布	1回	さといも
	ゼンタリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期 但し、収穫前日まで	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300㍈/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	さといも
					1000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	3回以内	さといも(葉柄)
	ブレイフロアブル	ピリタリル水和剤	UN		1000～2000倍	100～300㍈/10a	収穫7日前まで	散布	2回以内	さといも
	ブレイブソフロアブル5	クロラントラニリブロール水和剤	28		2000倍	100～300㍈/10a	収穫前日まで	散布	3回以内	さといも
ハダニ類	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	20D		1000倍	100～300㍈/10a	収穫3日前まで	散布	1回	さといも
ネグサレセンチュウ	ネマキック粒剤	イミシアホス粒剤	1B		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ネマクリン粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも
	ピールラム粒剤	フルオピラム粒剤	"「-」(I*)		20kg/10a		植付前	全面土壌混和	1回	さといも

(29) やまのいも										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
青かび病	ベルケートフロアブル	イミノタジナルベシル酸塩水和剤	M7		200倍	-	植付前	1～10分間種いも浸漬	1回	やまのいも
炭疽病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのいも
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのいも
葉洗病	ジマンダイセン水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		400～600倍	100～300g/10a	収穫21日前まで	散布	4回以内	やまのいも
	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300g/10a	収穫30日前まで	散布	6回以内	やまのいも
アブラムシ類	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのいも
ヤマノイモカビ	トレボン乳剤	エトフェンプロックス乳剤	3A		1000倍	100～300g/10a	収穫14日前まで	散布	3回以内	やまのいも

(30) 野菜類										RPA
病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名
うどんこ病	イオウフロアブル	水和硫黄剤	"UN(I*)		500～1000倍	100～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(すいか、かぼちゃ、トマト、ミニトマト、ねぎ、わけぎ、あさつき、いちごを除く)
	インフレーションクリア	バチルス・アミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800～1000倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ジーフアイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		750～1000倍	150～500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800～1000倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレーチス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300～600倍	150～500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
褐斑細菌病					15g/10a/日		発病前～発病初期	タケ外内投入	-	野菜類(トマトを除く)
褐斑細菌病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
黒斑細菌病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
黒腐病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
さび病	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
白さび病	ジーフアイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
軟腐病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500～1000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
	ジーフアイン水和剤	炭酸水素ナトリウム・銅水和剤	M1,NC		1000倍	150～500g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(なすを除く)
	バリオキパー水和剤	非病原性エルビニア・カトボレーラ水和剤	「-(生)」		500～2000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類(かぼちゃ、ズッキーニを除く)
灰色かび病	インフレーションクリア	バチルス・アミロクエファシエンス水和剤	BM2		1000～2000倍	100～300g/10a	発病前から発病初期まで	散布	-	野菜類
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶剤	NC		800倍	100～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類(トマト、ミニトマトを除く)
	ハーモイト水溶剤	炭酸水素ナトリウム水溶剤	NC		800倍	150～300g/10a	収穫前日まで	散布	-	野菜類
	ボトキラー水和剤	バチルス・スプレーチス水和剤	BM2		1000倍	150～300g/10a	発病前～発病初期	散布	-	野菜類
					300g/10a	6～10g/10a	発病前～発病初期	常温煙霧	-	野菜類
斑点細菌病					10～15g/10a/日		発病前～発病初期	タケ外内投入	-	野菜類(トマトを除く)
斑点細菌病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
	コサイド 3000	銅水和剤	M1		2000倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類
べと病	ゾボルトー	銅水和剤	M1		500倍	100～300g/10a	-	散布	-	野菜類(キャベツを除く)
ピシウム・リゾクトニア菌による病害(苗立枯病等)	オーソサイト水和剤80	キャプタン水和剤	M04		種子重量の0.2～0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類(いも類を除く)

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	作物名	
リゾトニア菌による病害(苗立枯病等)	バシタック水和剤75	メブロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	野菜類	
	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
アブラムシ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300倍	150～500ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
オオタバコガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
コナガ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)
コナジラミ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100～200倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300倍	150～500ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	ラノレーブ	ピリプロキシフェン剤	7C		10～50㎡/10a		栽培期間中		作物体の付近に設置する。	1回	野菜類(施設栽培)
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
シロイモシヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
ハスモンヨトウ	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
ハダニ類	エコビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(いちご、トマト、ミニトマト、きゅうり、なすを除く)
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		300～600倍	150～500ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類(なす、トマト、ミニトマト、しゅんぎくを除く)
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300ℓ/10a	収穫前日まで		散布	-	野菜類
ヨウムシ	エスマルクDF	BT水和剤	11A		1000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類
	ゼンターリ顆粒水和剤	BT水和剤	11A		1000～2000倍	100～300L/10a	発生初期まで	但し、収穫前日	散布	-	野菜類(キャベツ、はくさいを除く)
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		500～1000倍	100～300ℓ/10a	発生初期まで	但し収穫前日	散布	-	野菜類(パセリ、えごま(葉)を除く)

< 参考 1 > 土壌病害虫

(殺菌剤)

薬 剤 名	適用 病虫害名	なす	ピーマン	トマト	ミニトマト	きゅうり	すいか	メロン	かぼち	いちご	キヤベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	薬類	非結球あぶな	ほうれんそう	ねぎ	たまねぎ	らっきょう	にんにく	レタス	にんじん	未成熟そらめ	えだまめ	スイートコーン	ばれいしょ	かんしよ	やまのいも	さといも
オーソサイド水和剤80	苗 立 枯 病	○	○	○		○	○	○	○				○							○											
タチガレン液剤	立 枯 病																	○							○						
	苗 立 枯 病					○	○	○																							
タチガレン粉剤	苗 立 枯 病					○																									
	立 枯 病																	○													
ダコソイル	根 こ ぶ 病										○		○		○																
	根 く び れ 病												○		○																
ネビジン粉剤	根 こ ぶ 病										○	○	○	○	○	○(なばな類を除く)															
	そ う か 病																											○			
	粉状そうか病																											○			
	菌 核 病										○											○									
バシタック水和剤 7 5	黒 あ ざ 病																											○			
	苗 立 枯 病 (リゾクトニア菌)			○	○	○	○							○				○													
	亀 裂 褐 変 症 (リゾクトニア菌)													○																	
フロンサイド粉剤	根 こ ぶ 病										○	○	○		○	○	○(ケル、こまつな、みずな、のざわな、なばなを除く)														
	そ う か 病																											○			
	粉状そうか病																														
	白 絹 病 小菌核腐敗病																	○													
ランマンフロアブル	根 こ ぶ 病										○	○	○		○																
オラクル粉剤	根 こ ぶ 病										○	○	○		○	○															
	粉状そうか病																											○			
オラクル顆粒水和剤	根こぶ病										○	○	○		○	○															
	粉状そうか病																											○			

(殺虫剤)																																
薬 剤 名	適用 病害虫名	なす	ピーマン	トマト	ミニトマト	きゅうり	すいか	メロン	かぼち	いちご	キヤベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	薬類	非結球あぶらな	ほうれんそう	ねぎ	たまねぎ	らっきょう	にんじん	レタ	にんじん	未成熟そらまめ	エダマメ	スイートコーン	ばれいしょ	かんのしいも	やまのいも	さといも	
ダイアジノン粒剤 3	コガネムシ類幼虫	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○					○	○			○						○			
	ケネキリムシ類	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○						○ ケラ			○					○	○			
	タネバエ					○	○	○	○					○					○	○												
	ウリハムシ幼虫					○	○	○	○																							
	コオロギ																			○												
	タマネギバエ																			○												
デナボン5%ベイト	ネキリムシ類										○		○	○																		
	コオロギ ダンゴムシ										○		○																			
ネキリエースK	コオロギ類						○						○																			
	ネキリムシ類										○	○	○	○	○				○				○	○		○					○	
カルホス粉剤	ネキリムシ類	○		○	○	○					○		○	○					○				○				○					
	タネバエ					○								○				○								○						
	コガネムシ類幼虫									○																						
カルホス微粒剤F	ネキリムシ類					○		○		○		○	○						○				○			○						
	タネバエ																	○								○						
	コガネムシ類幼虫									○																						
ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○						○											○				○	○	○	
	ネグサレセンチュウ									○				○								○		○					○	○	○	
	ジャガイモシストセンチュウ																											○				
	ネダニ																				○											
バイデートL粒剤	ジャガイモシストセンチュウ																											○				
	ネコブセンチュウ		○	○	○	○	○	○						○									○	○					○	○		
	ネグサレセンチュウ			○	○	○	○							○									○	○					○			
ネマキック粒剤	ネグサレセンチュウ									○	○		○	○									○	○					○	○	○	○
	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○						○				○						○					○	○		
	ジャガイモシストセンチュウ																											○				

(殺菌・殺虫剤)

薬 剤 名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉 非 結	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ	
		す	ー マ	マ ト	ニ ト マ	ゆ い う	い ロ ン	ぼ ち ご	ヤ ベ ツ	ロ ッ コ リ	く い さ こ い	い ぶ	類 科	う れ ん そ う	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	め	ン	よ	よ	い	い	も	も		
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	苗 立 枯 病 (ピシウム菌)					○																									
	苗 立 枯 病 (リゾクトニア菌)	○	○	○	○	○	○	○	○		○							○						○	○						
	青 枯 病	○	○	○	○					○																					
	苗 立 枯 病																	○													
	根 こ ぶ 病										○	○	○	○	○	○	↑														
	半 身 萎 凋 病	○	○	○	○	○		○									(非結球芽、こまつな、非結球はくさい、なばな類、チンゲンサイ、みずなを除く)														
	褐 色 根 腐 病			○	○																										
	根 腐 萎 凋 病			○	○													○													
	し み 腐 病																					○									
	フ ザ リ ウ ム 立 枯 病								○																						
	黒 点 根 腐 病							○																							
	黒 変 根 腐 症							○																							
	黒 腐 菌 核 病																	○	○	○	○										
	そ う か 病 粉 状 そ う か 病																						○				○				
	萎 凋 病		○	○	○					○								○	○				○				○				
	立 枯 病																	○													
	株 腐 病											○						○													
	根 腐 病																	○		○			○						○		
	萎 黄 病										○	○			○	○															
	炭 疽 病										○																				
	つ る 割 病					○	○	○																				○			
	乾 腐 病																		○	○			○							○	
	白 絹 病	○	○	○	○	○	○	○										○	○		○	○	○		○			○			
	小 菌 核 腐 敗 病																	○													
	紅 色 根 腐 病			○	○			○										○	○		○										
	ネ グ サ レ セ ン チ ユ ウ													○								○								○	
	ネ コ ブ セ ン チ ユ ウ	○		○	○							○		○				○	○	○			○					○			
	紫 紋 羽 病																											○			
	ホ ウ レ ン ソ ウ ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ																	○													

(殺菌・殺虫剤)

薬 剤 名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	あ ぶ ら な 科 野 菜 (キャベツ、こまつなを除く)	ほ う れ ん そ う	ね	た	ら	に	レ	に	未 成 熟 そ ら ま め	豆 類 (未 成 熟)	と	ば	か	や	さ		
		す	ン	ト	ニ ト マ	ゆ う り	い か	ン	ぼ ち や	ご ツ	ー	い	ん	ぶ	ぎ	ぎ	う	く	ス	ん	め	し	よ	よ	の し よ	ま の い も	と い も					
クロールピクリン	苗 立 枯 病	○		○	○	○	○	○									○	○	○													
	疫 病	○	○	○	○	○	○	○	○ ↑(刈科野菜)										○											○		
	青 枯 病	○	○	○	○																					○						
	根 腐 病																	○			○						○					
	萎 凋 病		○	○	○													○	○													
	萎 黄 病									○	○	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○																
	白 絹 病					○	○	○	○ ↑(刈科野菜)									○						○	○	○						
	つ る 割 病					○	○	○	○ ↑(刈科野菜)																		○					
	立 枯 病																	○					○	○			○					
	半 身 萎 凋 病	○		○	○																											
	根 こ ぶ 病										○				○																	
	紋 羽 病																					○					○					
	し み 腐 病 こ ぶ 病																					○										
	黒 点 根 腐 病							○																								
	褐 色 腐 敗 病																												○			
	炭 疽 病										○																					
	黄 化 病 根 く び れ 病 軟 腐 病													○																		
	株 腐 病																		○													
	そ う か 病																										○					
	亀 裂 褐 変 症														○																	
	ケ ネ キ リ ム シ 類 ハ リ ガ ネ ム シ 類 セ ン チュ ウ 類	○	○	○	○	○	○	○	○	○ ↑(刈科野菜)	○	○	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	フ ザ リ ウ ム 立 枯 病									○																						
	ビッグペイン病																				○											
	ホ ウ レ ン ソ ウ ケ ナ ガ コ ナ ダ ニ																	○														

(殺菌・殺虫剤)																																	
薬 剤 名	適用 病害虫名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	(キ ャベツ、こま つなを 除く)	あ ぶ ら な 科 野 菜	ほ う れ ん そ う	ね	た	ら	に	レ	に	未 成 熟 そ ら ま め	豆 類 (未 成 熟)	と う も ろ こ し	ば れ い し よ	か ん し よ	や ま の い も	さ と い も		
		す	ン	ト	ト	リ	か	ン	や	ご	ツ	ー	い	ん	ぶ					ぎ	ぎ	う	く	ス	ん			し	よ	よ	も		
ドロクロール	フザリウム立枯病								○																								
	白絹病					○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)										○		○					○	○	○					
	つる割病					○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)																				○				
	萎黄病									○	○	○	○	○	○	○	○																
	苗立枯病					○													○		○												
	青枯病	○		○	○																							○					
	萎凋病		○	○	○													○															
	立枯病																	○							○	○			○				
	疫病					○																										○	
	根腐病																						○								○		
	半身萎凋病	○		○	○																												
	炭疽病										○																						
	黒点根腐病							○																									
	黄化病 軟腐病 根くびれ病													○																			
	紋羽病																												○				
	亀裂褐変症														○																		
	褐色腐敗病																														○		
	ネキリムシ類 センチュウ類 ハリガネムシ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)	○	○	○	○	○ ↑(アブラナ科野菜)	○	○	○	○					○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
クロルピクリン錠剤	青枯病	○	○	○	○																							○					
	萎凋病		○	○	○													○															
	疫病		○			○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)	○	○									○													
	立枯病																	○							○	○			○				
	白絹病					○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)										○							○	○						
	紋羽病																							○					○				
	つる割病					○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)																				○				
	萎黄病									○	○	○ ↑	○ ↑(アブラナ科野菜)	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○																
	黄化病																																
	黒点根腐病							○																									
	根腐病																						○								○		
	炭疽病										○																						
	苗立枯病	○	○	○	○	○	○	○			○										○												
	半身萎凋病	○																															
センチュウ類	○	○	○	○	○	○	○	○	○ ↑(ウ科野菜)	○	○	○ ↑	○ ↑(アブラナ科野菜)	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○	○	○	○			○	○	○	○		○	○	○	○	○	
クロビクフロー	萎凋病		○	○	○													○	○														
	萎黄病									○					○																		
	青枯病	○	○																														
	つる割病					○	○																						○ ↑(苗床)				
	ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○			○					○		○	○															
	ネグサレセンチュウ									○																							

(殺菌・殺虫剤)																																
薬 剤 名	適用 病害虫名	な	ビ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	え	ス	ば	か	や	さ	
		す	マ ン ト	マ ト	ニ ト マ	ゆ う リ	い か	ロ ン	ち や	ち ご	ヤ ベ ツ	ロ ッ コ リ	く さ い	い こ ん	ぶ	類	結 球 あ ぶ ら な	う れ ん そ う	ぎ	ぎ	う	き よ	に	タ に	ん じ	成 熟 そ ら ま	だ ま め	ス イ ー ト コ ー ン	れ い し よ	ん し よ	ま の い も	と い も
ソイリーン	つ る 割 病					○	○	○																								
	青 枯 病	○	○	○	○																								○			
	え そ 斑 点 病							○																								
	黒 点 根 腐 病						○	○																								
	立 枯 病								○																				○			
	黄 化 病												○																			
	根 く び れ 病												○																			
	バ ー テ ィ シ リ ウ ム													○																		
	黒 点 病														○																	
	し み 腐 病																							○								
	苗 立 枯 病 (リゾクトニア菌)										○																					
	白 絹 病																			○												
	そ う か 病																												○			
	炭 疽 病										○																					
	根 腐 病																														○	
	褐 色 腐 敗 病																															
	萎 凋 病			○	○														○													
	萎 黄 病										○																					
ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○		○	○	○					○	○	○				○	○	○	○
ネグサレセンチュウ																	○ 2777 のみ		○	○			○	○	○				○	○	○	○
D－D テロン	青 枯 病																												○			
	そ う か 病																												○			
	ジャガイモシストセンチュウ																												○			
	ジャガイモシロシストセンチュウ																												○			
	ネグサレセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ネコブセンチュウ																																
キルパー	コガネムシ類幼虫	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○		○	○					○	○	○	○
	萎 黄 病									○					○																	
	黒 点 根 腐 病							○																								
	乾 腐 病																			○		○										○
	萎 凋 病		○	○	○													○														
	し み 腐 病																							○								
	つ る 割 病					○	○																						○			
	白 絹 病																			○			○									
	す そ 枯 病																							○								
	ビ ッ グ ベ イ ン 病																							○								
	立 枯 病								○									○														
	そ う か 病																												○			
	根 腐 病																						○								○	
	根 腐 萎 凋 病																		○													
	株 腐 病																	○														
	根 く び れ 病												○																			
	根 こ ぶ 病											○	○	○																		
	半 身 萎 凋 病	○	○	○	○																											
	半 枯 病	○																														
苗 立 枯 病 (リゾクトニア菌)	○	○			○														○													
ネグサレセンチュウ									○				○										○									○
ネコブセンチュウ	○	○	○	○	○	○	○				○													○				○	○			

① 焼土による土壌消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
各種病害虫	床土消毒	・ 焼土 70℃で10分間 ・ 作り方 鉄板上に砕土した床土を約20cmの高さに盛り、かん水して水分を飽和状態にする。 この上にぬれたむしろを覆い下から加熱する。約50分間で温度が得られ、その後は、上の土が中央になるように積みあげて、温度を保つようにする。

② 太陽熱利用による土壌消毒法（ハウス内土壌病害虫）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】 萎黄病 【ナス】 半身萎凋病、 半枯病 【キュウリ】 つる割病 【ホウレンソウ】 立枯病、センチュウ類 （雑草種子）	7 月 下 旬 ～ 8 月 中 旬	・ 処理方法 ① 7 月中～下旬に、稲わらなどの粗大有機物を1~2kg/m ² 施用する。 ② 石灰窒素0.1kg/m ² 施用する。 ③ 耕耘機でわらをなるべく深くすき込み、畦立てを行う。畦巾60～70 cm、高さ30 cm として土の表面積を大きくし、太陽熱が深層に伝わりやすくする。 ④ ビニールで完全に被覆し、土の表面を密閉したのちハウスも密閉する。 ⑤ 直ちに畦間に水を入れ、全体を湿潤にして、そのまま放置する。 ・ 留意点 ① 精密機器、塩ビパイプ、石油類などは、処理期間中ハウス外に出しておく。 ② 本法は、TMV、青枯病に対しては効果が劣る。

③ 土壌還元消毒法（太陽熱と水とフスマまたは米糠などの有機物を用いた防除法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【スイカ】 急性萎凋病 【ホウレンソウ】 萎凋病、ケナガコナダニ 【ネギ】 根腐萎凋病 【イチゴ】 萎黄病 【トマト】 ネコブセンチュウ、 根腐萎凋病、褐色根腐病、 萎凋病など	平 均 気 温 20 ℃ 以 上 （6 月 ～ 9 月）	・ 準備するもの フスマまたは米糠1kg/m ² 以上、透明マルチ、かん水チューブ、水100 ℓ /m ² 以上 ・ 処理方法 ① 残さを除去する。土壌が乾いている場合は2～3日前までに深耕し、かん水しておく。 ② 消毒は晴天が続く日を選ぶ。 ③ フスマまたは米糠を 1 kg / m ² 均一に散布する。 ④ 散布後すぐに、土壌とフスマを深さ15～20cmに混和し、均平にする。 ⑤ かん水チューブを約60cm間隔で均一に配置し、透明なシートを全面に敷く。 ⑥ 100 ℓ /m ² 以上均一にかん水する。 ⑦ ハウスを密閉する。 ⑧ 2～3日するとドブ臭がする。 ⑨ 地温30℃以上を20日間保つ。または、外気の最高気温30℃以上の日が7日以上あれば 土壌消毒は完了する。 ⑩ ハウスを開放し、シートを除去する。数日間土壌を乾燥させ、乾いたら、改良資材・ 基肥を施用し、耕起、畦立て、作付けする。 ・ 留意点 ① 消毒後は深耕せず、土壌攪拌は最小限にする。 ② 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壌中の無機 態窒素量を測定して、施肥量を決める。

④ 熱水土壌消毒（圃場に熱水を注入して滅菌する効果の安定的した土壌消毒法）

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【ホウレンソウ】 萎凋病 【ダイコン】 萎黄病、ネグサレセンチュウ 【ハクサイ】 根こぶ病 【イチゴ】 ネグサレセンチュウ 【トマト】 青枯病、萎凋病、 褐色根腐病、 根腐萎凋病、 ネコブセンチュウ 【スイカ・メロン】 黒点根腐病、 つる割病 ネコブセンチュウ 【ダイズ】 黒根腐病、シストセンチュウ	厳 寒 期 を 除 き 通 年	・ 準備するもの 熱水土壌消毒装置、A重油または灯油、200V三相電源、水100 ℓ /m ² 以上、 ビニールマルチ、かん水チューブ ・ 処理方法 ① 残さを除去する。できるだけ深くまで耕起し、均平にする。 ② かん水チューブを25～40cm間隔で設置し、ビニールマルチまたは耐熱シートをする。 ③ 熱水土壌消毒装置を設置する。 ④ 80～95℃の熱水を注入する。注入量は深さ20cmまで消毒する場合には100 ℓ /m ² 、30cm まで消毒する場合には150 ℓ /m ² 、40cmまで消毒する場合には200 ℓ /m ² 、ホウレンソウの 不耕起栽培では60 ℓ /m ² とする。 ⑤ 翌日にはビニールマルチやシートを除去できる。 ⑥ 数日間土壌を乾燥させ、乾いたら、改良資材・基肥を施用し、耕起、畦立て、作付け する。 ・ 留意点 ① 透水性を良くするために普段から土づくりをしておく。 ② 消毒後は深耕せず、土壌攪拌は最小限にする。 ③ 消毒によってアンモニア態窒素、硝酸態窒素が増加するので、施肥前に土壌中の無機 態窒素量を測定して、施肥量を決める。

表1 処理温度と加温時間が病原菌の生存に及ぼす影響（1996・福井園試）

供試菌	被 加 温 時 間 （ h r . ）											
	処理温度	12	24	36	48	60	72	84	96	108	120	132
株腐病菌 <i>R.solani</i>	25℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45℃	●	●	●	●	●	●					
	50℃	●	●	●	●	●	●					
萎凋病菌 <i>F.oxysporum</i>	25℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	40℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	45℃	○	○	●	○	●	●	●	●			
	50℃	●	●	●	●	●	●	●	●			
立枯病菌 <i>P.ultimum</i>	25℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40℃	○	○	○	●	●	●	●	●	●	●	●
	45℃	●	●	●	●	●	●					
	50℃	●	●	●	●	●	●					
立枯病菌 <i>P.aphanidermatum</i>	25℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	40℃	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	45℃	○	●	●	●	●	●					
	50℃	●	●	●	●	●	●					

1）各処理温度で12時間、残りの12時間は15℃の変温処理とした。（25℃は終日）

⑤ 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒法

病害虫名	防除時期	処理方法および留意点
【イチゴ】 萎黄病、炭疽病 【トマト】 褐色根腐病 【ハウレンソウ】 萎凋病 【ウリ科野菜】 ホモブシス根腐病 【キュウリ】 ネコブセンチュウ	7 月 下 旬 ～ 8 月 中 旬 地 下 20 cm の 平 均 気 温 が 30℃ を 超 え る こ と	・ 処理方法 ① 土壌はできるだけ細かくし、圃場は均平にしておく。 ② フィルムを土壌に密閉させるため、処理前に除草しておく。 ③ 散水チューブを設置し、十分かつ均一に散布できることを確認する。 ④ ハウス内を密閉して定期的に散水する(土壌が湿っている方が深くまで地温が上がる)。 ⑤ 処理数日前に散水するとエタノールが均一に浸透し、消毒ムラが少なくなって、 効果が安定する。 ⑥ 希釈用大型タンク500ℓを準備し、土壌還元消毒用エタノールを50～200倍に希釈する。 ⑦ 対象病害に応じた希釈水を準備する（表2参照）。 ⑧ 散水チューブは、散布口の数が多い方が均一に短時間で処理できる。土壌全体が 均等に湿るように散水口の向きを調整する。 ⑨ 土壌を一定期間湛水または湿潤状態に維持するため、透明フィルムで散水チューブ ごと被覆する。 ⑩ 地温が高いほど効果が高まるため、土壌はフィルムで密閉し、ハウス内は気密性を高め ⑪ 2～3週間はそのままの状態を保つ。 ⑫ 土壌還元が進むと、エタノール消毒特有の発酵臭がする。 ⑬ 還元処理終了後、透明フィルムを取り外す。 ⑭ 圃場の耕起を行う。ただし、事前に再び病害虫等に汚染されないようにトラクタの タイヤ、耕起部、胴体を洗浄しておく。 ⑮ 通常の土壌水分や土壌温度、還元状態が元に戻れば、作付けする。 （は種等までに、1週間以上の期間をあける。） ・ 留意点 ① 水はけが良すぎる土壌での利用は避ける。 ② 土壌の還元状態は、ジピリジル反応や酸化還元電位（Eh）の測定で確認する。 ③ 土壌や処理後の環境条件によっては、消毒の程度が十分でないことがあるので、事前 に試してから実施するか、事前に経験者に相談してから実施する。

表2 低濃度アルコール消毒の濃度と施用量

作物	対象病害虫名	エタノール濃度	1m ² あたり液量 ¹⁾
イチゴ ²⁾	萎黄病・炭疽病	0.5～2.0%	100ℓ
トマト	褐色根腐病	0.75%	200ℓ
ハウレンソウ	萎凋病	0.5～1.0%	100～200ℓ
ウリ科野菜 ³⁾	ホモブシス根腐病	1.0～2.0% ⁴⁾	100～200ℓ
キュウリ	ネコブセンチュウ	0.5～1.0%	100～200ℓ

（参照） 低濃度エタノールを利用した土壌還元作用による土壌消毒技術 実施マニュアル（農業環境科学研究所HP）

<https://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/techdoc/ethanol/#manual2>

- 1) 砂地（ある程度水持ちがあること）では少ない液量でよい。また、液量が多いほど土壌深くまで還元による消毒効果が現れる
ので、作物の根域の深さや病害の種類に応じて液量を調整する。
- 2) 栽培方法により、処理濃度が異なる。
- 3) カボチャ、キュウリ、スイカ、メロンなど。
- 4) 地温が低いほど高濃度が必要。

〈参考２〉 ウイルス病
野菜のウイルス病と伝染方法

野 菜 名	病 名	病 原 ウ イ ル ス	伝 染 方 法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
な す	モ ザ イ ク 病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
ピ ー マ ン	モ ザ イ ク 病	PMMoV (トウガラシ微斑ウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
ト マ ト	モ ザ イ ク 病	ToMV (トマトモザイクウイルス)	○	○	○	○		
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	○			○	
		PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○				
	黄 化 え そ 病	TSWV (トマト黄化えそウイルス)	○					ア ザ ミ ウ マ 類
	黄 化 葉 巻 病	TYLCV (トマト黄化葉巻ウイルス)						タ バ コ コ ナ ジ ラ ミ
	黄 化 病	ToCV (トマト退緑ウイルス)						コ ナ ジ ラ ミ 類
き ゅ う り	モ ザ イ ク 病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
		ZYMV (ズッキーニ黄斑モザイクウイルス)	○	△			○	
	緑 斑 モ ザ イ ク 病	KGMMV (キュウリ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	黄 化 病	BPYV (ビートシュードイエロースウイルス)						オ ン シ ツ コ ナ ジ ラ ミ
す い か	モ ザ イ ク 病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑 斑 モ ザ イ ク 病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	え そ 斑 点 病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オ ル ピ デ ィ ウ ム 菌
か ぼ ち ゃ	モ ザ イ ク 病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
メ ロ ン	モ ザ イ ク 病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	△			○	
		WMV (スイカモザイクウイルス)	○	○			○	
	緑 斑 モ ザ イ ク 病	CGMMV (スイカ緑斑モザイクウイルス)	○	○	○	○		
	え そ 斑 点 病	MNSV (メロンえそ斑点ウイルス)	○	○	○	○		オ ル ピ デ ィ ウ ム 菌
い ち ご	ウ イ ル ス 病	SMoV (イチゴ斑紋ウイルス)		?		?	○	種 苗
		SMYEV (イチゴマイルドイエローエッジウイルス)		?		?	○	種 苗
		SVBV (イチゴベインバンディングウイルス)		?		?	○	種 苗
		SCV (イチゴクリンクルウイルス)		?		?	○	種 苗
だ い こん	モ ザ イ ク 病	TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		CaMV (カリフラワーモザイクウイルス)	○	?			○	
	ひだ葉モザイク病	RaMV (ダイコンモザイクウイルス)	○					キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ

野菜名	病名	病原ウイルス	伝染方法					
			汁液	接触	土壌	種子・種イモ・種球	アブラムシ類	他媒介虫等
ねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
たまねぎ	萎縮病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
	えそ条斑病	IYSV (アイリス黄斑ウイルス)	○					ネギアザミウマ
らっきょう	ウイルス病	SYSV (シャロット黄色条斑ウイルス)	○				○	
ほうれんそう	モザイク病	BtMV (ビートモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
	えそ萎縮病	BBWV (ソラマメウルトウイルス)	○				○	
レタス	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		LMV (レタスモザイクウイルス)	○			○	○	
	ビッグベイン病	MiLBVV (レタスビッグベインミラフィオリウイルス)	○		○			オルピディウム菌
しゅんぎく	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
		TuMV (カブモザイクウイルス)	○	○			○	
にんじん	モザイク病	CeMV (セルリーモザイクウイルス)	○				○	
		CMV (キュウリモザイクウイルス)	○				○	
ばれいしょ	モザイク病	PVX (ジャガイモXウイルス)	○	○		○		
		PVY (ジャガイモYウイルス)	○			○	○	
	黄斑モザイク病	PAMV (ジャガイモ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
	葉巻病	PLRV (ジャガイモ葉巻ウイルス)				○	○	
さといも	モザイク病	CMV (キュウリモザイクウイルス)	○	?			○	
		DsMV (サトイモモザイクウイルス)	○			○	○	
そらまめ	モザイク病	BYMV (インゲンマメ黄斑モザイクウイルス)	○			○	○	
		BBWV (ソラマメウルトウイルス)	○				○	
		PSbMV (エンドウ種子伝染モザイクウイルス)	○			○	○	
にんにく	モザイク病	LYSV (リーキ黄色条斑ウイルス)	○				○	
トウモロコシ	えそモザイク病	MDMV (トウモロコシ萎縮モザイクウイルス)	○			○	○	

△:伝染しやすい条件で起こる

〈参考3〉野 そ

殺 そ 剤	適用作物	防 除 方 法	注 意 事 項
ヤソヂオン	野ソが加害する農作物等	200～300g/10a 手まきによる防除 本剤5gをそのまま、あるいは5gの小袋詰をソ穴(ネズミの生息する穴)に投入するか野ソの通路に配置する。	・子供や家畜が毒餌を誤って食べる恐れがある場所での使用は避ける。 ・作業後は顔、手足など石鹸でよく洗う。

〈参考4〉器具、 資材消毒

適用（場所）	対 象	防 除 方 法			注 意 事 項
		薬 剤 名	使用濃度	使用方法	
農業資材	育苗箱(木箱、プラスチック箱) 育苗用ポット 支柱等資材	イチバン	500～1,000倍	瞬時浸漬又は ジョロ散布 水100当たり 10～20ml	・収穫用コンテナ・かごを除く
農業資材	催芽箱、育苗箱、育苗トレイ・ポット、植木鉢、果実類貯蔵箱、温室用資材、収穫用かご等農具の消毒	ケミクロンG	500倍	瞬間浸漬またはジョウロ散布 水100当たり 20g	・金属類や木箱に使用した場合、必ずその後水洗する。 ・育苗トレイ、ポットを消毒する場合薬害(生育障害)を生じるおそれがあるので必ず水洗する。
			1,000倍	10分間浸漬 水100当たり 10g	

資材は残渣や土を落としてから消毒すること。

〈参考5〉コオロギ、 カタツムリ類、 ナメクジ類、 ケラ

病害虫名	防除時期	防 除 方 法				注 意 事 項
		薬 剤 名	使用方法	10a当たり 使用量	使用 回数	
コオロギ	キャベツ： 収穫14日前 まで ハクサイ： 収穫21日前 まで	デナポン5%ベイト	株元散布	3～4kg	3回 以内	・適用作物:キャベツ、ハクサイ ・圃場を波板（50cmぐらいの高さ）などで囲むと侵入防止になる。 ・ダンゴムシ、ネキリムシ類、ハスモンヨトウにも登録あり。
カタツムリ類 ナメクジ類	発生時	スラゴ	ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ及びヒメリンゴマイマイの発生あるいは加害を受けた場所又は株元に配置	1～5g/㎡	－	・適用作物:ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等 ・適用場所:温室、ハウス、圃場、花壇
ケラ	作物により異なる	ダイアジノン粒剤3	土壌混和	作物により異なる	作物により異なる	・適用作物ごとに時期や使用回数があるので、土壌病害虫の項参照。 ・販売会社により使用時期等の登録内容が異なることがあるため、使用においてはラベルを必ず確認すること。

〈参考6〉 主要野菜のチョウ目害虫の防除薬剤

IRACコード	系統	薬剤名	害虫名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
1A	カーバメート	ランネート45DF	アオムシ	○		○	○	○		
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○						
			ハイマダラノメイガ				○			
1B	有機リン	エルサン乳剤	アオムシ	○	○	○	○	○		
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○		○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○		
			コナガ	○	○	○	○	○		
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○	○		
		オルトラン粒剤	アオムシ	○	○(オルトラン)	○	○			
		ジェイエース粒剤	ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○		○	○			
		オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤	アオムシ	○		○				
			ハスモンヨトウ	○		○				
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○						
		トクチオン乳剤	アオムシ	○						
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○						
			シロイチモジヨトウ	○					○	
		マラソン乳剤	アオムシ	○	○	○	○	○		
3A	ピレスロイド	トレボン乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ							○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
		アグロスリン乳剤	アオムシ							
			ハスモンヨトウ							
			ヨトウムシ							
			コナガ							
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ							
1B 3A	有機リン・ ピレスロイド	ハクサップ水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○	○			○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○		○				
4A	ネオニコチノイド	モスピラン粒剤	アオムシ	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○						
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○	○				

IRACコード	系統	薬剤名	害 虫 名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
5	スピノシン	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○					○	
			ハイマダラノメイガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○		○				
		ディアナSC	アオムシ	○	○	○	○	○		
			ハスモンヨトウ	○	○	○		○		○
			ヨトウムシ	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ		○				○	
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○			
			オオタバコガ	○	○	○				
			ウワバ類	○	○	○	○			
6	アベルメクチン	アニキ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						
6 15	アベルメクチン ベンゾイル尿素	アフームエクセラ顆粒水和剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○	○		○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			オオタバコガ	○		○				
			タマナギンウワバ	○						
11A	BT	トアロー水和剤CT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		トアローフロアブルCT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
		エスマルクDF 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○			○	○		
		エコマスターBT 野菜類	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○	○	○	○	○	○
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○			
		ゼンターリ顆粒水和剤 野菜類 (キャベツ、はくさいを除く)	アオムシ	○	○	○	○	○	○	○
			ハスモンヨトウ	○	○		○	○	○	○
			ヨトウムシ	○	○	○	○	○	○	○
			コナガ	○	○	○	○	○	○	○
			シロイチモジヨトウ	○	○		○	○	○	○
			オオタバコガ	○	○		○	○	○	○

IRACコード	系統	薬剤名	害 虫 名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
13	ピロール	コテツフロアブル	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○	○	○		○		
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オオタバコガ	○						
			タマナギンウワバ	○						
14	ネライストキン	パダンSG水溶剤	アオムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			ハイマダラノメイガ	○						
15	ベンゾイル尿素	マツチ乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○		○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○						
		アタブロン乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○		○	○			
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○	○	○				
			ハイマダラノメイガ	○						
		ノーモルト乳剤	アオムシ	○		○	○			
			ハスモンヨトウ	○						
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			タマナギンウワバ	○		○				
			ハイマダラノメイガ							
		カスケード乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					
			ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○					○	
			ハイマダラノメイガ	○			○			
			オオタバコガ	○						
			タマナギンウワバ	○						
18	ジアシルーヒドラン	マトリックフロアブル	ハスモンヨトウ	○						○
			ヨトウムシ		○	○	○			
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○			○			
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	アオムシ	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○	○		
22A	オキサジアジン	トルネードエースDF	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○					○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			ウワバ類	○		○				

IRACコード	系統	薬剤名	害 虫 名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
22B	セミカルバザン	アクセルフロアブル	アオムシ	○		○		○		
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			ヨトウムシ	○	○	○	○			
			コナガ	○	○	○		○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○						
			ウワバ類	○						
28	ジアミド	プレバソンフロアブル5	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○	○	○	○			
			オオタバコガ	○	○	○				
			ウワバ類	○						
		フェニックス顆粒水和剤	アオムシ	○		○				
			ハスモンヨトウ	○	○	○				○
			ヨトウムシ	○	○	○				
			コナガ	○	○	○	○	○		
			シロイチモジヨトウ						○	
			ハイマダラノメイガ	○	○		○	○		
			オオタバコガ	○		○				
			ウワバ類	○						
		ベリマークSC	アオムシ	○	○	○				
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○						
			コナガ	○	○	○				
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○	
			ハイマダラノメイガ	○	○	○				
			ウワバ類	○						
		ベネビアOD	アオムシ	○	○	○	○			
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○		○	○			
			コナガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○	○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			オオタバコガ	○						
			ウワバ類	○		○				
28 4A	ジアミド・ ネオニコチノイド	ジュリボフロアブル	アオムシ	○	○					
			ハスモンヨトウ	○	○	○				
			ヨトウムシ	○		○				
			コナガ	○	○	○				
			ハイマダラノメイガ	○	○	○				
			オオタバコガ	○						

IRACコード	系統	薬剤名	害 虫 名	キャベツ	ブロッコリー	はくさい	だいこん	かぶ	ねぎ	さといも
30	イソオキサゾリン	グレーシア乳剤	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハ ス モ ン ヨ ト ウ	○		○				○
			ヨ ト ウ ム シ	○		○				
			コ ナ ガ	○		○	○	○		
			オ オ タ バ コ ガ	○		○				
			シロイチモジヨトウ	○		○			○	
			ハイマダラノメイガ	○		○	○			
			ウ ワ バ 類	○		○				
UN	ピリダリル	プレオフロアブル	ア オ ム シ	○		○	○			
			ハ ス モ ン ヨ ト ウ	○	○			○		○
			ヨ ト ウ ム シ	○		○	○			
			コ ナ ガ	○	○	○	○			
			シロイチモジヨトウ	○	○				○	
			ハイマダラノメイガ	○						
			オ オ タ バ コ ガ	○		○				
			ウ ワ バ 類	○						

〈参考7〉 チョウ目害虫殺虫剤の特性と使用上のポイント

IRAC コード	系統名	農薬の名称	特徴	浸透 移行性 ¹⁾	効果の 発現 ²⁾	残効性 ³⁾	食毒 ⁴⁾	接触毒 ⁴⁾	忌避 ⁴⁾	使用上のポイント
1A	カーバメート系	ランネート45DF	・極めて速効的な効果 ・幅広い適用害虫 ・幅広い生育ステージへの効果 (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○	○	×	○	○		・施設(ハウス)内での散布は絶対しない
1B	有機リン系	エルサン乳剤 オルトラン水和剤 トクチオン乳剤 マラソン乳剤	・非選択的吸収毒である ・抵抗性が発達しやすい (コナガで抵抗性の発達が見られる)	○ ○ ○	○ △ △ ○	△ ○ ○ ×	○ ○ ○	○ ○ ○		・広範囲の害虫に有効 ・食害性害虫や吸汁性害虫に効果 ・チョウ目害虫、ハダニ類等に効果 ・吸汁性害虫に効果
3A	合成ピレスロイド系	トレボン乳剤 アグロスリン乳剤	・産卵抑制、忌避効果がある ・抵抗性が発達しやすい (一部地域のコナガで抵抗性発達が見られる)		○ ○	○ ○	○	○ ○	○ ○	・広範囲の害虫に効果
1B 3A	有機リン系 ＋合成ピレスロイド系	ハクサップ水和剤	・産卵抑制、摂食阻害あり	△	○	○	○	○	○	・大型鱗翅目害虫に効果
4A	ネオニコチノイド系	モスピラン粒剤	・定植時の処理により害虫の発生を 長期間抑制 ・粒剤は天敵にやさしい	○	○	◎	○	○		・コナガ、アオムシ、アブラムシ類に有効
5	スピノシン系	スピノエース顆粒水和剤 ディアナSC	・チョウ目、アザミウマ目害虫に卓効		○ ○	○	○ ○	○ ○		・天然物由来殺虫剤 ・広い殺虫スペクトラム
6	ミルベメクチン系	アニキ乳剤	・チョウ目、ハモグリバエ類、コナジラミ類、ア ザミウマ類に殺虫活性	△	○		○	○		・既存薬剤に抵抗性を示す害虫にも効果
6 15	アベルメクチン系 ＋IGR脱皮阻害	アフームエクセラ顆粒水溶剤	・幅広い生育ステージで殺虫効果を発揮 ・殺卵効果を有す	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、優れた進達性を有する
11A	BT(kurstaki)死菌	トアロー水和剤CT トアローフロアブルCT	・チョウ目害虫の幼虫に対し、選択的に作用し 安定した効果を発揮	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
11A	BT(aizawai)生菌	エスマルクDF エコマスターBT ゼンターリ顆粒水和剤	・食毒効果のみで、接触毒効果はない ・幼虫の食害がとまる	×	△	△	○			・若齢幼虫期に時機を失せず散布する
13	ピロール系	コテツフロアブル	・殺虫スペクトルが広い ・害虫のいずれの加害ステージにも効果を示す	×	○		○			・結球前に使用し、かけむらのないよう十分 量を散布する
14	ネライストキシン系	パダンSG水溶剤	・特に食害性害虫に有効	○	△	○	○	○		・コナガに対し、強い殺卵作用、殺成虫作用、 幼虫に対する長い残効性がある
15	ベンゾイル尿素系 IGR(キチン合成阻害)	マッチ乳剤 アタブロン乳剤 ノーモルト乳剤 カスケード乳剤	・キチン生合成阻害 ・脱皮阻害	×	×	○	○			・幼虫主体の発生初期に散布する ・幼虫期のなるべく早くに散布する ・殺卵作用がある ・産下卵ふ化抑制
18	ジアシルーヒドラジン系 IGR(脱皮促進)	マトリックフロアブル	・チョウ目害虫に高い効果 ・脱皮変態の促進 ・摂食阻害作用		△		○			・チョウ目以外に脱皮促進効果はない
21A	METI剤	ハチハチ乳剤	・殺虫スペクトルが広い ・難防除害虫に高い効果を示す ・殺菌作用を有する	×	○			○		・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
22A	オキサジアジン系	トルネードエースDF	・大型チョウ目害虫にも、高い効果 ・中齢・老齢幼虫にも有効 ・食害をすぐに止める		○	○	○	○		・ねぎのシロイチモジヨトウを防除する場合は、 食入前の若令幼虫期に散布する
22B	セミカルバゾン系	アクセルフロアブル	・接触阻害効果 ・齢期の進んだチョウ目害虫の幼虫にも高い 効果	×	○		○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する。
28	ジアミド系	プレバゾンフロアブル5	・幼虫に対する効果が高い ・速やかに摂食行動を停止させる	○	○	○	○			・灌注と散布のいずれでも使用可能
		ベリマークSC	・幅広い殺虫スペクトラム	○	○	○	○			・灌注処理
		ベネビアOD	・速やかな摂食行動阻害	○	○	○	○			・OD製剤は展着剤の機能も同時に兼ね備える
		フェニックス顆粒水和剤	・チョウ目害虫に効果が高い ・害虫の筋肉を収縮させる	×	○	○	○			・かけ残しのないように葉の表裏に十分散布 する
28 4A	ジアミド系 ＋ネオニコチノイド系	ジュリボフロアブル	・チョウ目から吸汁性害虫まで幅広い殺虫効果 を示す	○	○	○	○			
30	イソオキサゾリン系	グレーシア乳剤	・広範囲の害虫に効果 ・耐雨性が高い	△	○	○	○	○		・浸透移行性はないが、浸達性は高い
UN	ピリダリル系	プレオフロアブル	・既存の殺虫剤とは異なる作用性を有する ・散布後の降雨による効果の低下が少ない	△	○	○	○	○		

注1)浸透移行性:○強い △弱い ×なし 2)効果の発現:○速い △やや遅い ×遅い 3)残効性:○長い △やや長い ×短い 4)食毒、接触毒、忌避:○あり HP等による

〈参考8〉フェロモン剤による防除法

1 コナガコン-プラス(コナガ・オオタバコガ・ヨトウガ交信攪乱剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病虫害	使用量	使用時期	使用方法
アロニア	アロニア栽培地帯	交尾阻害	リンゴヒメシンクイ	100本/10a (22g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け、または挟み込み設置する
コナガ、オオタバコガ、ヨトウガが加害する農作物等	コナガ、オオタバコガ、ヨトウガの加害作物栽培地帯		コナガ オオタバコガ ヨトウガ	100～120本/10a (22g/100本剤)		作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て、支持棒にディスペンサーを巻き付け固定し、圃場に配置する
コナガ、オオタバコガが加害する農作物等	コナガ、オオタバコガの加害作物栽培地帯		コナガ オオタバコガ	20～40m/10a (55g/50m製剤)		支柱を立てロープ状の製剤を対象作物の上部に張り渡す

2 コンフューザーV(交信攪乱剤)

作物名	使用目的	適用害虫名	使用量	使用時期	使用方法
野菜類 いも類 豆類(種実) 花卉類・観葉植物	交尾阻害	コナガ オオタバコガ ハスモンヨトウ タマナギンウワバ イラクサギンウワバ ヨトウガ	100～200本/10a (41g/100本製剤)	対象作物の栽培全期間	作物の生育に支障のない高さに支持棒等を立て支持棒にディスペンサーを巻き付け固定し圃場に配置する
		シロイチモジヨトウ	100本/10a (41g/100本製剤)		

※キャベツでは100本/10a+BT剤（30a圃場）でも効果が期待できる。（H19普及に移す技術）

3 フェロディンSL(ハスモンヨトウ大量誘殺剤)

作物名	適用場所	使用目的	適用病虫害	使用量	使用時期	使用方法
あぶらな 科野菜 いちご いも類 たばこ なす科野菜 にんじん ねぎ類 まめ科牧草 豆類 レタス れんこん 等	ハスモンヨトウ加害作物栽培地帯	誘引	ハスモンヨトウ 雄成虫	2～4個/ha	成虫発生初期から発生終期まで	本剤をトラップ1台当たり1個を取付けて配置する。取付けた薬剤は1.5～2ヶ月間隔で更新する

3 その他の防除用フェロモン剤

ヨトウコン- S : 交尾阻害 : シロイチモジヨトウ 100～500本(20cmチューブ)/10a(露地)
 ヨトウコン- H : 交尾阻害 : ハスモンヨトウ 20～200m/10a(20cmチューブの場合100～1000本)(露地)

〈参考 9－1〉微生物由来の薬剤(殺菌剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	うどんこ病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	うどんこ病	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	インプレッションクリア
	灰色かび病	バチルス ズブチリス水和剤	ボトキラー水和剤 バイオワーク水和剤 バチスター水和剤 アグロケア水和剤(ニラ灰色かび病を除く) セレナーデ水和剤
		銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	灰色かび病	バチルス ズブチリス水和剤	エコショット
	菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
	軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニを除く)	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
野菜類 (かぼちゃ、ズッキーニ、しょうがを除く)	軟腐病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
野菜類(施設栽培)	うどんこ病	ペキロマイセス テヌイペス乳剤	ゴッツA
いも類	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	灰色かび病		
	軟腐病	ラクトバチルス プランタラム水和剤	ラクトガード水和剤
ばれいしょ	軟腐病	非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
だいこん	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
にんじん	黒葉枯病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
にんにく	黒腐菌核病	コニオチリウム ミニタンス水和剤	ミニタンWG
ねぎ			
きゅうり	褐斑病 斑点細菌病 べと病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
かぼちゃ	うどんこ病	バチルス ズブチリス水和剤	セレナーデ水和剤
	軟腐細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
		非病原性エルビニア カロトボーラ水和剤	バイオキーパー水和剤 エコメイト
トマト ミニトマト	疫病	銅・バチルス ズブチリス水和剤	クリーンカップ ケミヘル
	すすかび病		
	葉かび病		
	茎えそ細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	かいよう病		
	灰色かび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
	葉かび病		
	葉かび病	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	インプレッションクリア
	すすかび病		
	葉かび病	バチルス ズブチリス水和剤	バイオワーク水和剤 エコショット アグロケア水和剤 バチスター水和剤 セレナーデ水和剤
ミニトマト	斑点病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
なす	すすかび病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール
		バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ピーマン	黒枯病	バチルス アミロリクエファシエンス水和剤	インプレッションクリア
		バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
ブロッコリー	花腐腐敗病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒腐病		
	花腐腐敗病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	黒斑細菌病		
キャベツ	根こぶ病	バリオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
	黒腐病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒腐病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	黒斑細菌病		
はくさい	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
	黒腐病		
	黒斑細菌病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
	黒斑細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
レタス 非結球レタス	根こぶ病	バイオボラックス パラドクス水和剤	フィールドキーパー水和剤
	斑点細菌病	シュードモナス ロデシア水和剤	マスタピース水和剤
	腐敗病		
	腐敗病	シュードモナス フルオレッセンス水和剤	ベジキーパー水和剤
ほうれんそう	白斑病	バチルス ズブチリス水和剤	アグロケア水和剤
いちご	炭疽病	タラロマイセス フラバス水和剤	タフパール

〈参考9－2〉微生物由来の薬剤【BT:バチルス・チューリンゲンシス】(殺虫剤)

薬剤名	死菌	生菌	使用倍率	10a当り 使用量	野 菜 類									その他の品目等	使用 時 期
					コ ナ ガ	ア オ ム シ	ヨ ト ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ ヨ ト ウ	オ オ タ バ コ ガ	ウ リ ノ メ イ ガ	タ マ ナ ギ ン ウ ワ バ	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ		
トアロー水和剤 CT	○		1,000～2,000倍	100～ 300ℓ	○	○								果樹類:ハマキムシ類(500～1,000倍) ストック:コナガ(1,000倍)	発 生 初 期 、 た だ し 収 穫 前 日 ま で
			500～1,000倍				○								
トアローフロアブルCT	○		1,000～2,000倍		○	○									
			500～1,000倍								○				
ゼンターリ顆粒 水和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300ℓ	○	○	○							はくさい:アオムシ、コナガ、ヨウムシ(2,000倍) ウリ科野菜:ウリノメイガ(1,000倍) いも類:ハスモンヨトウ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)	
			1,000倍					○	○	○					
エスマルクDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300ℓ	○	○								キャベツ、だいこん、かぶ:ハイマダラノメイガ(1,000倍)	
			1,000倍				○			○					
バシレックス水 和剤		○	1,000～2,000倍	100～ 300ℓ	○	○								かき:イラガ類、カキノヘタムシガ(1,000倍)	
			1,000倍									○			
			500倍				○	○							
デルフィン顆粒 水和剤		○	1,000倍	100～ 300ℓ	○	○		○	○	○	○			やまのいも:ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) いも類(ヤマノイモを除く):ハスモンヨトウ、オオタバコガ(1,000倍) とうもろこし:オオタバコガ(1,000倍)	
チューンアップ 顆粒水和剤		○	2,000～3,000倍	100～ 300ℓ	○	○				○			○	水稻:ニカメイチュウ(1,000～2,000倍)、フタオビコヤガ、コブノメイガ、イネツトムシ(2,000～4,000倍) ストック:コナガ(2,000倍)	
			3,000倍								○				
			2,000倍				○								
フローバックDF		○	1,000～2,000倍	100～ 300ℓ	○	○			○					にんにく:ネギコガ(1,000～2,000倍) キャベツ、だいこん:ハイマダラノメイガ(1,000倍)	
			1,000倍				○	○		○					
クオークフロアブル		○	400～800倍	150～ 300ℓ	○	○	○							きゅうり:ウリノメイガ(400倍)	
			400倍					○		○					
サブリーナフロアブル		○	1,000～1,500倍	100～ 300ℓ	○									はくさい:コナガ(1,000～1,500倍)、アオムシ、ヨウムシ(1,000倍)	
			1,000倍			○	○								
			500～750倍					○							
			500倍							○					

死菌：バチルス チューリンゲンシス菌の産生する結晶毒素(7.0%)
生菌：バチルス チューリンゲンシス菌の生芽胞及び産生結晶毒素(10.0%)

〈参考 9－3〉微生物由来の薬剤(殺虫剤)

作物名	適用病害虫	農薬種類名	商品名
野菜類	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
	アブラムシ類		
	コナガ		
	コナジラミ類		
	ハダニ類		
	ネコブセンチュウ	パスツーリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
	ハスモンヨトウ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
野菜類(施設栽培)	アザミウマ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
	ワタアブラムシ	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
	コナジラミ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤
		ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
いも類	ネコブセンチュウ	パスツーリア ペネトランス水和剤	パストリア水和剤
かんしょ(茎葉)	アリモドキゾウムシ	スタイナーネマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
	イモゾウムシ		
ねぎ	クロバネキノコバエ類	スタイナーナマ カーボカブサエ剤	バイオセーフ
トマト	コナジラミ類	ボーベリア バシアーナ水和剤	ボタニガード水和剤
ミニトマト		ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
キャベツ	アオムシ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
レタス	オオタバコガ	ボーベリア バシアーナ乳剤	ボタニガードES
いちご(施設栽培)	ハダニ類	ペキロマイセス フモソロセウス水和剤	プリファード水和剤

〈参考 10〉天敵昆虫剤

作物名	適用病虫害	商品名
野菜類	ハダニ類	スパイカルEX
		スパイカルプラス
野菜類(施設栽培)	チャノホコリダニ	スワルスキープラス
		リモニカ
	ハダニ類	ミッチトップ
		チリトップ
		スパイデックスバイタル
		チリガブリ
		チリカ・ワーカー
		ミヤコトップ
		ミヤコスター
		システムミヤコくん
	アザミウマ類	アカメ
		メリトップ
		ククメリスEX
		スワルスキープラス
		オリスターA
		タイリク
		トスパック
		リクトップ
		リモニカ
	アブラムシ類	アフィパール
		コレトップ
		チャバラ
		テントップ
		カメノコS
	コナジラミ類	エンストリップ
		エルカード
		スワルスキープラス
		リモニカ
	オンシツコナジラミ	ツヤトップ25
	ハモグリバエ類	ミドリヒメ
野菜類(施設栽培、 ただし、トマト、ミニトマトを除く)	チャノホコリダニ	システムスワルくん
		システムスワルくんロング
	アザミウマ類 コナジラミ類	システムスワルくん
		スワマイト
		システムスワルくんロング
野菜類(露地栽培)	ハダニ類	システムミヤコくん
	アザミウマ類	スワルスキープラス
いも類(施設栽培)	チャノホコリダニ アザミウマ類 コナジラミ類	スワルスキー
いも類(露地栽培)	アザミウマ類	スワルスキー
きゅうり(施設栽培)	アザミウマ類	バコトップ
トマト・ミニトマト(施設栽培)	コナジラミ類	バコトップ
なす(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
ピーマン(施設栽培)	アブラムシ類	ギフパール
とうがらし類(施設栽培)		
ほうれんそう(施設栽培)	ケナガコダナニ	ククメリスEX
いちご(施設栽培・露地栽培)	ハダニ類	ミヤコスター
		システムミヤコくん

〈参考 1 1〉 展着剤

分類	薬剤名	作物名	散布液10ℓ 当たり使用量	使用方法	適用農薬名	湿 展 性	浸 透 性	分 散 性	可 溶 化 力	固 着 性	懸 垂 性
機能性展着剤 (アジュバント)	アプローチBI	野菜類	10mℓ	添加	殺虫剤、殺菌剤	○	◎	○	◎	○	○
		野菜類、いも類	5mℓ		殺虫剤、殺菌剤	◎	◎	○	◎	○	○
	スカッシュ	野菜類、いも類	5～10mℓ		殺虫剤、殺菌剤	○ ◎	○	△	○		△
	ドライバー	野菜類	2～10mℓ		有機リン剤、カーバメート 剤等の殺虫剤。無機銅剤、 有機銅剤等の殺菌剤	◎	○ ◎	○ △	○ ◎	○	○
	ミックスパワー	キャベツ、ハクサイ、 キュウリ等	3. 3mℓ		有機リン剤、カーバメート剤などの 殺虫剤。殺菌剤。銅剤、硫 黄剤、抗生物質剤などの殺 菌剤	○ ◎	○	△ ○ ◎	○	○	△ ○ ◎
一般展着剤 (スプレッター)	グラミン S	キャベツ等の薬液のつきにくい作物	1～3mℓ		イミダクジン酢酸塩剤、有機銅 剤、イプロロニル剤等の殺菌剤	◎	○ ◎	△ ○	○	○	△ ○
		はくさい、きゅうり、ば れいしょ等の薬液のつき やすい作物	0. 5～1mℓ		有機リン剤、カーバメート剤等の殺 虫剤。ホルター液、銅剤、硫黄 剤、抗生物質剤等の殺菌剤	◎	○	○ △	○	○	○
	ダイコート	薬液のつきにくい農作物等	5mℓ		抗生物質剤、銅剤などの殺 菌剤。有機リン剤、カーバメート 剤などの殺虫剤	○	△	△	○	○ △	(△)
	ベタリンー A	キャベツ、ねぎ等で展着 しにくい作物	2～4mℓ		硫黄剤、銅剤などの殺菌 剤。塩素剤、リン剤などの 殺虫剤。植物成長調整剤、 除草剤	◎	○	○ △	○	○	○
		野菜等で薬剤のつきや すい作物	1～2mℓ		殺菌剤・殺虫剤	◎	○ △	○ △	○		
	マイリノー	キャベツ、ねぎ等の薬液 のつきにくい作物	1～2mℓ		殺菌剤・殺虫剤	◎	○ △ ◎	○ △	○ ◎	○	○
		野菜等で薬液のつきや すい作物	0. 5～1mℓ								
	アグラー	野菜類、その他の一般 畑作物	5000～10000 倍								
	まくぴか	野菜類、いも類	1～3. 3mℓ								
	ブレイクスルー	野菜類、いも類	1～2mℓ								

※ 作物によっては薬害が出やすいことがあるので、必ず使用する展着剤に関する情報を確認し、初めて使用する際は小面積で使用する。

- 1 クミアイ農薬総覧より引用。
- 2 表に示した湿展性～懸垂性等の6項目の性質は、界面活性剤単成分の一般的性質で、使用場面では相手の農薬との相性があるので、必ずしもこの表のとおりになるとは限らない。また、浸透性はろ紙法による結果であり、必ずしも動植物体への浸透性を示すもの
- 3 濡れやすい作物では、展着剤を加えすぎると薬液が流亡し、かえって付着量が少なくなることがあるので注意する。
- 4 表に示した性質以外に、泡立ちがある。
- 5 展着剤の特性

(1) 湿展性:植物や病害虫の表面にぬれて広がり、薬液を均一に付着させる性質

(2) 浸透性:薬剤が植物組織体へ浸透し、効果を高める性質

(3) 分散性:懸濁や乳化により、水に不溶性または難溶性の薬剤を均一に拡散させ、薬剤粒子間の凝集を防ぐ性質

(4) 可溶化力:ミセルを形成することより、不溶性または難溶性の薬剤を水に均一に溶解させる性質

(5) 固着性:薬剤の付着量を増すとともに、風雨などによる流亡を防ぐ性質

(6) 懸垂性:水和剤粒子が水に均一に分散した状態を維持させて、沈降を遅らせる性質

濡れの程度	該当作物名
良い	キュウリ、インゲンマメ、トウモロコシ、カンショなど
中程度	ナス、トマト、メロン、イチゴなど
悪い	キャベツ、ネギ類、サトイモなど

- 6 農薬を溶かす手順
- ・混用により卓越した薬効の増強が期待できるが、薬害の発生しやすい条件や薬害の出やすい農薬との混用時には注意が必要である。
- ・一般的に、界面活性剤を多く含む製剤を先に入れた方が、後から加える薬剤の攪散を助ける。
- ・水→展着剤→乳剤→フロアブル剤→水和剤の順番に加える。
- ・乳剤は、加えた後均一に白くなるまで攪拌する。
- ・フロアブル剤は、前日に容器を反転させておく。調整時は容器をよく振って、ビンの中の薬剤を均一にしてから加える。
- ・水和剤は、調製した薬液を静置すると少しずつ沈殿するので、できるだけ早く散布する(攪拌しながら散布することが望ましい)。

〈参考 1 2〉 発生予察用資材

過剰な農薬使用を防ぐとともに、環境に与える負荷を軽減したIPM(総合的病害虫・雑草管理)を推進するためには、病害虫の発生予察に基づき、適切な防除を行う必要がある。そのため、各圃場に発生予察用資材を設置し、害虫の発生状況を調査すると防除の要否が判断できる。

1 発生予察用フェロモン剤

発生予察用フェロモン剤によるモニタリング調査可能な害虫一覧

対象作物名	対象害虫名	利用可能トラップ			誘引シート	有効期間	調査
		粘着式	乾式	ファネル			
野菜類	ハスモンヨトウ用	○	○	○		1ヶ月	毎日
	シロイチモジヨトウ用	○		○			
	ヨトウガ用	○					
	オオタバコガ用	○		○			
	タバコガ用	○					
	カブラヤガ用	○					
	タマナヤガ用	○					
	タマナギンウワバ用	○					
	コナガ用	○		○			
	アワノメイガ用	○					
	ホウレンソウケナガコナダニ用				○		

- (使用方法)
- ・粘着式…フェロモン剤を粘着トラップの中央に接着し、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
 - ・乾式、ファネル…フェロモン剤を内部に入れ、圃場内に地面から離れた状態で設置する。
 - ・誘引シート…シートを圃場の地表面に設置する。

- (注意事項)
- ・有効期間内にフェロモン剤を交換し、使用済みのフェロモン剤は回収後破棄する。
 - ・発生予察用フェロモン剤は、防除目的に使用できない。
 - ・ホウレンソウケナガコナダニ「コナダニ見張番」は長期間放置すると、発生源となる恐れがあるので、遅くても1週間以内に回収する。
 - ・対象作物・害虫によって、トラップの設置高が異なるので注意する。

【参考】
一般社団法人 日本植物防疫協会 発生予察用資材フェロモンとその利用
<https://jppa.or.jp/wpsite/wp-content/uploads/pheromones.pdf>

2 カラー粘着板

粘着板の色彩と誘引される害虫

粘着板の色彩	対象害虫名	調査
黄色	アブラムシ類、ハモグリバエ類、コナジラミ類、アザミウマ類	7日ごと
青色	アザミウマ類(みなみ	

- ・野菜類を加害する上記の微小昆虫を誘引・捕殺する粘着板を利用することで、圃場内の発生状況を知ることができる。
- ・粘着板は圃場内に数ヵ所設置し、7日ごとに調査を行い、圃場への侵入時期・発生量の目安とする。
- ・一般に微小昆虫は成虫の発生から1週間前後で次世代幼虫が増加してくるので、害虫の生育ステージに効果的な薬剤を選定する。
- ・要防除水準は、作目、害虫の種類により異なるが、ウイルス病の媒介が懸念される場合には、粘着板への誘引、捕殺を確認次第、薬剤防除を実施する。

2 野菜・いも類除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は散布実面積当たりの量であり、畝内散布面積を前もって算出し、その面積当たりの薬量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は、雑草の発芽期に土壌表面を細かく砕いて散布する。
- ③ 残効害防止のために、除草剤は均一に散布すること。
- ④ 土壌処理は適当な湿度が必要で、乾燥状態では効果が少なく湿潤すぎると薬害の恐れがある。
- ⑤ 水量は、土の湿り具合で増減する。 噴霧器は、低圧～中圧で下向き噴口のものを使用する。
また、風が強いときなどは、散布を避けること。
- ⑥ マルチ、トンネル、ハウスなどは薬害が出やすいので、極端な高温、乾燥状態では使用せず、薬量を少なめにする。

(2) 農薬使用基準 （各農薬の使用時期・使用回数は適用作物毎に異なるので確認の上使用する）

(3) 使用方法

除 草 剤 名	な	ピ	ト	ミ	き	す	メ	か	い	キ	ブ	は	だ	か	葉	非	ほ	ね	た	ら	に	レ	に	未	ス	ば	か	や	さ	
	す	ー	マ	ニ	ゆ	い	ロ	ぼ	ち	ヤ	ッ	く	い	こ	ぶ	結	う	れ	ま	っ	ん	タ	ん	成	イ	れ	ん	ま	と	
															類	科														
トレファノサイド乳剤	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○				○	○	○	
トレファノサイド粒剤2.5	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○						○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	
ナブ乳剤			○			○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	↑ (豆類(未成熟))		○	○	○	○
バスアミド微粒剤 ガスタード微粒剤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
ゲザプリムフロアブル																								○ ↑ (とうもろこし)						
ラッソー乳剤									○	○	○	○	○	○			○								○ ↑ (とうもろこし)	○	○	○		
クレマート乳剤	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○						○	○	○	○	○	○			○		○	○	
クレマートU粒剤			○		○	○	○			○								○	○		○		○			○	○	○	○	
ゴーゴーサン乳剤										○		○						○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
ゴーゴーサン細粒剤 F										○		○						○	○		○	○	○		○	○			○	
フィールドスターP 乳剤										○	○								○						○	○				
クロロIPC									○	○							○		○			○	○	○						
ロロックス																		○		○	○		○		○	○	○	○	○	
ラウンドアップマックスロード	○	○	○	○ ↑	○	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○ ↑	○	○ ↑	○	○	○	○ ↑	○ ↑	○	○	○	○	○ ↑	○	○	○	○ ↑	○ ↑ (とうもろこし)	○ ↓ (いも類) ↑ (とうもろこし)	○ ↓ (いも類) ↑ (とうもろこし)	○ ↑	○ ↑

※↑は野菜類で登録、または（ ）内に記載の品目で登録